

# 私たちの挑戦

修了生座談会  
修了生VOICE

# INNOVATORSHIP



多摩大学大学院MBAは、

## 志ある

一業を担う経営者(社長・事業部長・変革型ミドル)

一業を起こす起業家(イントラプレナー・アントレプレナー)

を育てる実学志向のビジネススクールです。

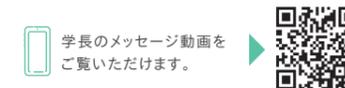
## 沿革

- 1989 ● 多摩大学開設  
(設置者/学校法人 田村学園理事長 田村邦彦)  
野田一夫 学長就任  
多摩大学総合研究所開設
- 1993 ● 大学院修士課程開設  
鈴木雪夫 研究科長就任
- 1995 ● 大学院博士課程開設  
中村秀一郎 学長就任  
グレゴリークラーク 学長就任
- 1999 ● 日下公人 研究科長就任
- 2001 ● 中谷巖 学長就任  
青山浩一郎 研究科長就任  
ルネッサンスセンター開設
- 2003 ● 河村幹夫 研究科長就任
- 2004 ● 情報社会学研究所開設  
品川サテライトキャンパス開設
- 2005 ● 統合リスクマネジメント研究所開設
- 2006 ● ロジスティクス経営・戦略研究所開設  
宇佐美洋 研究科長就任
- 2008 ● 野田一夫 学長代行就任  
橋本忠夫 研究科長就任
- 2009 ● 寺島実郎 学長就任  
実学5ドメインに基づく新カリキュラムスタート
- 2011 ● 八王子サテライト開設 (2014年3月閉設)
- 2013 ● 統合リスクマネジメント研究所を  
医療・介護ソリューション研究所へ改組
- 2014 ● 徳岡晃一郎 研究科長就任  
公開講座リニューアル  
多摩大学大学院プロジェクトリーダーシリーズ開講
- 2016 ● ルール形成戦略研究所開設
- 2017 ● MBAルール形成戦略コース創設
- 2018 ● 社会的投資研究所開設
- 2020 ● 河野龍太 研究科長就任

# Message

学長メッセージ

## これからの時代を 主体的に生き抜くための “知の再武装”を！



社会人大学院としてMBAコースを開設以来、多摩大学大学院は1,000名を超す卒業生を送り出し、すでにそれぞれの分野で中核的な活動を担う人材も多く、社会に対し一定の役割を果たしていることを喜んでいます。それは、実際に企業経営の現場に立ってきた経験豊富な教授陣による実践指導による実学教育の成果であると自負しております。

私自身は、第一次石油危機の起きた1973年に三井物産に入社し36年間、経営情報と企画の現場に立ちました。私の人生を変えることになったイランにおける石油化学プロジェクト(IJPC)には思い出深いものがあります。1979年にイラン革命、翌年にイラン・イラク戦争が勃発、このプロジェクトは今でもハーバードビジネススクールのMBAコースで、革命と戦争というカントリーリスクを学ぶ際のケーススタディとして必ず登場します。

私はイスラエルのテルアビブ大学、ロンドンの国際戦略研究所、ワシントンのブルッキングス研究所などを行き来し、革命後のイランでいかにこのプロジェクトを乗り越えるかという課題に取り組んでいました。結果として三井グループは大きな教訓を残してこのプロジェクトからの撤退を余儀なくされたのですが、このプロセスにおいて「課題解決型の企業経営」の重要性を思い知らされました。

本大学院の果たすべきこれからの役割を考えると、世界潮流の変化とそれに向き合う企業の課題に目を向けなければいけません。その一つは、アジアダイナミズムであり、もう一つは、AI・ビッグデータ時代を睨んだDX、デジタルトランスフォーメーションです。ビジネスの世界に身を置く諸氏の中には、このことを実感されている方も多くことでしょう。

多摩大学大学院は、MBAをベースとして時代のニーズと課題に立ち向かっていく力を持った人間を生み出し、さらに専門性の高い分野として、データ志向経営、医療、金融、NPO・NGO、ルール形成戦略、社会的投資などの専門を身につけることができます。本

学の教授陣は現実社会との対峙から得られた貴重な経験を実際に役立つ形に体系化し、マネジメントの本質を追求しています。新しいプロジェクトに参画する情熱を持った社会人たちと相まみえることに期待を膨らませています。

100歳人生を生き抜くには人生のどこかの段階で改めて自分と向き合い、自分に必要な知とは何かを問いかけることが必要になります。これからは、新しい先端的な研究の成果を吸収する「知の再武装」が必要になります。あなたも多摩大学大学院で“知の再武装”に挑戦して下さい。

知の武装なしに、これからの時代を主体的に生き抜くことは困難です。

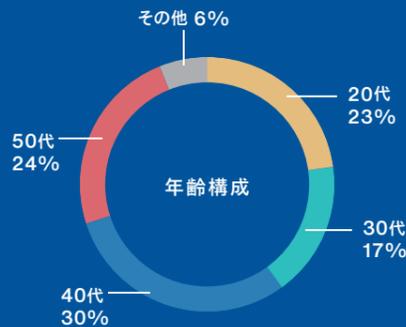
多摩大学学長 寺島 実郎

## TERASHIMA Jitsuro

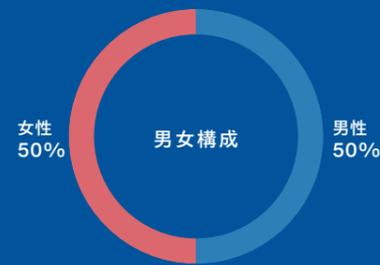
**Profile** 1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究所修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産ワシントン事務所長、三井物産戦略研究所所長、三井物産常務執行役員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任。文部科学省 日中韓大学間交流・連携推進会議委員、経済産業省 資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員、国土交通省 国土審議会計画推進部会委員等、国の審議会委員も多数務める。1994年石橋湛山賞受賞。2010年4月早稲田大学名誉博士学位。  
近著に、『ダビデの星を見つめて 体験的ユダヤ・ネットワーク論』(NHK出版)、『人間と宗教 あるいは日本人の心の基軸』(岩波書店)、『日本再生の基軸 平成の晩鐘と令和の本質的課題』(岩波書店)。  
主な著書は、『(寺島実郎監修)全47都道府県幸福度ランキング2022年版』(日経総研出版)、『(佐高信共著)戦後日本を生き延びた世代は何を残すべきか われらの持つべき視界と覚悟』(河出書房新社)、『ジェロントロジー宣言「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』(NHK出版新書)、『ひとはなぜ戦争をするのか 脳力のレッスンV』(岩波書店)、『ユニオンジャックの矢 大英帝国のネットワーク戦略』(NHK出版)、『シルバー・デモクラシー 戦後世代の覚悟と責任』(岩波新書)、『寺島実郎 中東・エネルギー・地政学—全体知への体験的接近』(東洋経済新報社)、『二十世紀と格闘した先人たち—一九〇〇年 アジア・アメリカの興隆』(新潮社)、『何のために働くのか—自分を創る生き方』(文春新書)、『大中華圏 ネットワーク型世界観から中国の本質に迫る』(NHK出版)他多数。

## 多摩大学大学院で学ぶ在学生たち

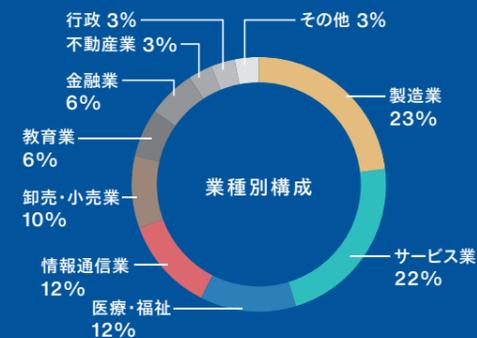
(2023年5月1日時点)



40代・50代の層は約54%。マネージャークラスが多く学んでいる点が多摩大学大学院の特徴です。役員やトップの方も少なくありません。クラスは互いに刺激を受け学び合う場です。



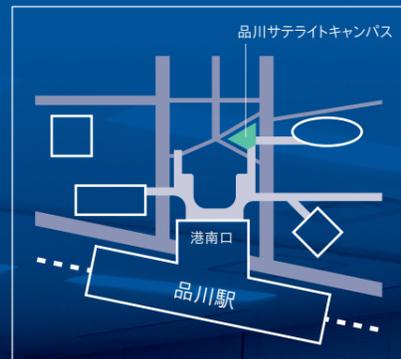
通常のビジネススクールよりも女性の比率が高いことが多摩大学大学院の特色です。女性の社会進出の拡大にともなって、ビジネスにおける管理者・経営者・起業者をめざす女性が増えています。



多摩大学大学院では、学ぶ院生の業種・職種も実にさまざまです。近年は、在学中や修了後に自らビジネスを起業される方も増えてきています。

## 品川サテライトキャンパス

キャンパスは、品川駅に隣接した品川インターシティフロントビル。都内近郊で働きながら学ぼうと考えるビジネスパーソンはもちろん、新幹線を利用しての通学にも最適なロケーションです。



### ACCESS

〒108-0075 東京都港区港南2-14-14 品川インターシティフロント 5階  
(品川駅港南口より徒歩1分)

TEL. 03-5769-4170(代) FAX. 03-5769-4173  
E-mail: tgs@tama.ac.jp



大学院公式サイト



大学院公式 You Tube



大学院公式 Facebook

# Message

研究科長メッセージ



## 組織や社会の未来を変える 実践知を備えたリーダーへ

数あるビジネススクールの中で多摩大学大学院にご関心を寄せていただき感謝いたします。本学が他のビジネススクールと何が違うのかについてお話します。

まず何よりも「経営の実践知」に徹底的にこだわっているということです。不確実性がますます高まっている現代において企業は多くの難題に直面しています。これからのビジネスパーソンに必要なのは、組織や社会が抱える複雑な問題に対してインパクトのある成果を生み出せる本質的思考力や本物の問題解決力です。そして、それらを支える実践的な知識やスキル、人を活かす知恵が欠かせません。本学では多彩な実務家講師陣を通じてビジネスの現場で試され鍛えられた経営の実践知を少人数クラスで深く学ぶことができます。

イノベーションを起こすための知識やスキルを総合的に学べるという点も本学の特長です。1990年代の不況以降30年近くも低成長から抜けきれない今の日本ほど「起業家精神(アントレプレナーシップ)」の発揮が価値をもつ国はないでしょう。当学では、世界的な経営学者の野中郁次郎先生(一橋大学名誉教授)と本学の徳岡晃一郎名誉教授が共同で考案した「イノベーターシップ」という独自コンセプトに基づき、知識創造論、デザイン思考、シナリオ・プランニング、ビジネスモデル、チェンジ・マネジメント、ルール形成戦略といった新しい価値を創造するためのセオリー、実践的ノウハウ、リーダーシップ・スキルを体系的に習得できるカリキュラムが組まれています。新たなチャンスを切り拓き組織や社会を活気づけるリーダーになるための力が得られるはずですよ。

これからのビジネスリーダーは、自社の成功のみならず社会的課題についても深い関心を持ち、その解決のために自社の事業を重ねてコミットすることが求められています。そのためには、高い

志、広い視野、深い洞察力、長い時間軸をもって本質を見抜きあるべき未来を構想する力が必要です。本学では、そのようなスキルを磨くために、サステイナブル経営、ソーシャルインパクト投資といったビジネスを通じて社会的課題の解決をはかる最先端の方法論を学べる講座や、歴史、哲学、アート、古典などを通じて本質を捉える力や直観力を養う独自のリベラルアーツ系講座が充実しています。なぜ本学が「MBAを超えたMBA」と評されるのかをぜひご自身で体験してください。

最後に、多士済々の卓越した実務家講師陣による刺激的で深い学びこそが、本学ならではの醍醐味です。独学とはまったく次元の違う価値や自己の成長が得られるでしょう。

一生の人的財産にもなる素晴らしい仲間と一緒に、人生100年時代を乗り切るための「知の再武装」にぜひあなたも取り組みませんか。

多摩大学大学院 研究科長 **河野 龍太**

## KONO Ryuta

**Profile** 博報堂、博報堂ブランドコンサルティング、ITベンチャー数社の経営参画を経て、イノベーション&マーケティングの戦略コンサルティング会社、(株)インサイトリンクを設立、代表取締役社長。世界で最も影響力のある経営思想家を選ぶThinkers50(2015)にも選出されたイノベーション戦略の代表的指導者アレックス・オスターワルダ氏がCEOを務めるStrategyzerの日本人唯一の公認トレーナーとして、国内外企業の戦略プロジェクトや人材トレーニングを多数支援。早稲田大学法学部卒業。英国ウォーリック大学経営大学院でMBA取得。長崎市出身。

# なぜ、 超実学志向MBAと 言われるのか。

ますますグローバル化・複雑化する経営環境下における日本経済・社会の長い閉塞状況は、従来型の価値観・意識の抜本的かつ速やかな変革を求める強いメッセージです。トータルマネジメントの本質を体得し、真の意味での「志ある一業」を実践し成果を上げる経営者は、ときに既成組織内における新規事業の総責任者(intrapreneur:イントラプレナー)として、また組織をも創り出す創業者(entrepreneur:アントレプレナー)として新しい時代を切り拓いていくことでしょう。

多摩大学大学院は、「何のための理論か」「何に役立つ知識なのか」を常に追求し、あらゆる実践に対して条理と確信を与える理論的基礎と、現実を表層的ではなく本質的に理解する言葉と行動力を養うことを教育の基本方針としています。実際の問題の分析や解決には、さまざまな知識と柔軟で多様なアプローチスキルの活用に加え、短期的ではなく本質的解決を創造的に見出してゆく構想力が強く求められます。経営実学とは、学術的学問ではなく、まさに経験を理論化した実践的学問なのです。教授陣には、産業界における最新の実務経験が豊富で、現実との対峙から得られた貴重な経験をさまざまな状況で役立つ形に理論化し、実践知にまで高めて、みなさんに伝えられる人材を多数そろえています。

カリキュラム群を貫くコンセプトは「イノベーターシップ」です。それは現実を転換する熱い思いとしたかな実践知。その力を少数精鋭のクラスで2年間、しっかりと磨いてほしいと願っています。そして、本学の院生であったことから生まれる教授陣や仲間との深いネットワークは必ずや生涯にわたるかけがえのない財産となることを確信しています。

Reason 1

第一線の実務家講師陣から、  
[生きた実践知]を学べる

詳しくは  
P.07-08  
P.19-28

Reason 2

[少人数クラス]で、  
深く、濃く、丁寧に学ぶ

詳しくは  
P.09-10

Reason 3

MBA基礎から  
イノベーション経営までマスターできる  
[独自のカリキュラム]

詳しくは  
P.11-12

Reason 4

リーダーシップを超えた  
[イノベーターシップ]を修得できる

詳しくは  
P.13-14

Reason 5

一人ひとりの現実課題を解決する  
[ゼミと修論プロジェクト]

詳しくは  
P.15-16

## CONTENTS

### Side A

教育理念／沿革	P.01
学長メッセージ	P.02
多摩大学大学院で学ぶ在学生たち／品川サテライトキャンパス	P.03
研究科長メッセージ	P.04
なぜ、超実学志向MBAと言われるのか。	P.05
Reason 1	P.07
Reason 2	P.09
Reason 3	P.11
Reason 4	P.13
Reason 5	P.15
履修プラン	P.17
教員からのメッセージ	P.19
教員紹介	P.23
TOPICS イノベーションの世界的第一人者から学ぶ	P.29
特別プログラム ライフシフト大学プログラム／品川塾	P.30
入学者選抜	P.31

### Side B

裏表紙からお読みください

「私たちの挑戦」	
修了生座談会	P.01
修了生VOICE	P.03

# 第一線の実務家講師陣から、 [生きた実践知]を学べる

KONNO Noboru



TOKUOKA Koichiro



HORIUCHI Tsutomu



KAWADA Hideki



OGIWARA Naoki



KOKUBUN Toshifumi



## 紺野 登

日本における「知識創造」「ナレッジマネジメント」および「デザイン思考」「デザイン経営」、「場の経営」などの提唱者の一人として、1990年代から数多くの研究と実践を手がけてきた。また、戦略における物語アプローチ(2008年)や、イノベーションにおける目的の役割(目的工学:2013年)を打ち出すなど、常に先端的なコンセプトを打ち出している。イノベーションの場としてのフューチャーセンターなどの普及もしている。『構想力の方法論』(2018年)では構想力の経営、リベラルアーツの重要性を提言している。

教員からのメッセージ▶P.19

『イノベーション全書』

東洋経済新報社



## 徳岡 晃一郎

イノベーターシップの生みの親。日産自動車人事制度設計や教育、風土改革などを担当。カルロス・ゴーン元CEOのもとで日産のV字回復のために一緒に仕事をした経験を持つ。その後はコミュニケーションと人事が専門の米大手コンサルティング会社に移りパートナーとして、日本企業のV字回復、風土改革、組織活性化などに取り組んできた。多摩大学大学院ではこれら実践的な経験を知識創造の観点から理論化し新しい人事制度(MBB)を伝えている。現在ではライフシフト社を起業し、人生100年時代のキャリア設計指南の講座を大学院でも展開している。

教員からのメッセージ▶P.19

『未来を構想し、  
現実を変えていく  
イノベーターシップ』

東洋経済新報社



## 堀内 勉

近年話題のESG投資やインパクト投資、インパクトエコノミー分野の研究で草分け的存在。新自由主義的な株主至上主義の弊害が語られる中、ステークホルダー資本主義という汎汎業一の「論語と算盤」に見られるバランスの取れた「新しい資本主義」のあり方が、世界中で模索されている。日本の大手銀行を振り出しに、米国の大手投資銀行、大手不動産デベロッパーなど、従来型の資本主義世界で活躍してきたかたから、社会課題解決型の金融のあり方をいち早く提唱して切り拓いてきた。その理論と実践をサステナビリティ経営フィールドで展開するとともに、多摩大学サステナビリティ経営研究所の所長も務めている。

教員からのメッセージ▶P.21

『読書大全 世界の  
ビジネスリーダーが  
読んでいる経済・哲学・  
歴史・科学200冊』

日経BP



## 川田 英樹

世界的経営学者、野中郁次郎氏を師として、知識創造理論を柱に、国内の中小企業から大手企業グループ、アジア諸国の政府機関・NGO等のリーダー育成や組織変革支援を長年行っている。また、ネパールの山村にボランティア教師として赴いて以来、20年以上、村の教育レベル向上に貢献する等、グローバルシチズンシップを自ら実践してきた。イノベーションを起こす実践知リーダーに不可欠な「野性」を磨く「場」づくりを幅広い層を対象にライフワークとして行っている。

教員からのメッセージ▶P.21

『野性の経営-極限の  
リーダーシップが  
未来を変える』

KADOKAWA



## 荻原 直紀

世界銀行をはじめ、組織変革とナレッジ・マネジメント、イノベーション経営のグローバルな現場で、20数年にわたり実践・研究を行ってきた。組織変革への深い造詣とファシリテーションに基づき、経営者・チェンジリーダーの「伴走者」として、国内外の様々な大規模変革プロジェクトを成功に導いている。グローバルな知識創造経営の研究とのネットワークが広く、知識創造の原理原則に基づく経営のあり方一新の展開をめざし、(一社)知識創造プリンシプルコンソーシアムの共同代表も務める。

教員からのメッセージ▶P.22

『ダイナモ人を  
呼び起こせ』

日経BP



## 國分 俊史

日本を代表するルール形成戦略と経済安全保障の専門家。両分野は米中の覇権競争が日本企業の経営戦略に与える影響、デジタルテクノロジーの進展と規制が市場に与える影響など、これまでの企業戦略論やマーケティング論を根底から揺るがす新しい分野だ。当該領域の気鋭のコンサルタントとして、日本の政産官はもとより、欧米のシンクタンクやインテリジェンス関係者ともパイプを持つ数少ない存在。この分野に精通する人材を早急に育成するために多摩大学ルール形成戦略研究所を創設し所長も務めている。

『エコミック・  
ステイトクラフト  
経済安全保障の戦い』

日本経済新聞出版



## 第一線で活躍する経験豊富な実務家講師陣が圧倒的に充実 ビジネスの問題解決に直結する生きた実践スキル、知恵を学べます

多摩大学大学院MBAでは、「志」「イノベーション」「顧客創造」というように、独自に体系化された13のフィールド(P.11)すべてにおいて、ビジネスの第一線で活躍する実務家講師陣より基本理論から実践スキルまで、統合的・横断的に学ぶことができます。企業、官公庁をはじめとした、幅広いフィールドで豊富な実務経験を有する講師陣は、自らの経験をメソッド化し、実体験や想いを交えながら講義を行っています。

### 講師の数

#### 実践知考具

- 志 ..... 3名
- イノベーション ..... 7名
- 顧客創造 ..... 5名
- リーダーシップと人事 ..... 11名
- ファイナンス&ガバナンス ..... 8名
- データドリブン経営 ..... 4名

#### 最新ビジネス実践知

- アジアビジネス戦略 ..... 3名
- ヘルスケア ..... 5名
- サステナビリティ経営 ..... 9名
- テクノロジー&ベンチャー ..... 3名
- ルール形成戦略 ..... 6名

#### 教養基盤

- 本質思考力 ..... 5名
- 留学生支援 ..... 4名
- 論文演習 ..... 9名

各フィールドを担当する講師数は兼任(同一教員の重複)を含む

## [少人数クラス]で、深く、濃く、丁寧に学ぶ



大人数クラスのビジネススクールとは違い、講師や院生同士の距離が近い【少人数クラス】をすべての授業で展開。深く、濃く、丁寧に学べます。ハイフレックス授業の導入により、自分のライフスタイルに合わせて通学とオンラインの2つの形式を選択し受講することができます。世代を超えた多種多様な業種・職種の方々が、ディスカッション形式の講義を通じて、高度な課題解決に立ち向かっています。

### ■ 2023年度3月修了生満足度調査

多摩大学大学院の  
総合満足度

満足

96.3%

多摩大学大学院の  
授業満足度

満足

100%

キャリア形成するうえで  
有用な知識等の修得度

修得できた

96.3%

多摩大学大学院生の  
生活満足度

満足

100%

### 業務にリンクした指導内容に、キャリアが拓けていくことを実感

以前から日本の国際的なプレゼンスを強固なものにしたいと思っていましたが、近年の社会情勢の中で経済安全保障の必要性を強く感じました。そこで独学で学び始めたのですが、より体系的かつ最新の知見を得たいと考えたことが、多摩大学大学院入学のきっかけとなりました。

講義はハイフレックスなので時間を確保しやすく、教授陣からも丁寧に指導していただける点が魅力です。また将来のことも踏まえた内容なので、今後のキャリアが拓けていくようにも感じます。院生もさまざまな業種・職種から向上心のあるメンバーが集まっており、ディスカッションを通して刺激を受ける毎日です。

学びの中で社会課題を軸とするアプローチを知るに至り、本来的な意味でのPRに関心を抱くようになりました。今後は具体的なテーマを取り上げながら、新市場創出のためのルール形成とそのPRの実践に取り組んでいきたいと考えています。



デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社  
CMO Office マネージャー

富樫 さやか さん (2022年4月入学)

### 最新の事例を題材に、実践知を獲得できる科目群が魅力



TOPPANエッジ株式会社  
中央研究所ビジネス企画部 部長

中原 康輔 さん (2023年4月入学)

以前から「研究開発×経営学」の視点で会社や社会に変革を起こしたいと考え、それには専門領域の学問を実践的に学ぶ必要があると感じていました。多摩大学大学院への進学を決め手となったのは、実学重視の方針や経験豊富な教授陣の存在です。また、専門実践教育訓練給付金制度が適用されることも、非常に魅力的でした。

学び始めて感じるのは、基本的な理論だけでなく最新のビジネス分野から実践知を獲得できる豊富な科目が揃っており、目的に合った学びができることです。3時間の講義は長いのでは?と思いましたが、自身の業務に当てはめながら考えを巡らすと、時間が足りなくなるほど充実しています。

現在は研究開発部門に所属することから、社会課題に技術を活用させ貢献する方策について考えています。学んだリーダーシップやイノベーション創出の手法を業務に活かし、研究開発の分野から自社の成長を牽引していくことが目標です。

### 新たな視点・視座が得られる貴重な学びの時間

オフィスからも通いやすい場所にキャンパスがあるので、なるべく通学で学んでいます。多摩大学大学院の良さは、少人数クラスで実践的な知識が学べる点に加え、多種多様なキャリアの方たちと共に学べる点。そして、一方的な講義ではなく、教授から与えられる課題について同級生と意見交換する時間があるので、自分になかった視座を得ることができます。実務経験豊富な教授陣からも新たな視座をいただける、貴重な学びの時間となっています。

就職して約10年が経ち、新たな部署で課長職を任されるようになり、会社で得た経験値だけでは次のキャリアを形成するのは難しいと感じていました。そんな私にとって多摩大学大学院での“知の再武装”は、重要な意味を持っています。



株式会社ファンケル  
新規事業本部 新規事業推進部 新規探索グループ

中道 由理加 さん (2022年4月入学)

# MBA基礎からイノベーション経営までマスターできる 【独自のカリキュラム】

【MBA基本理論+イノベーターシップ=突破力のあるリーダーを育成する新しいMBA】

マネジメントの基本理論からイノベーションの専門ソッドと実践知まで総合的に学べる新時代のリーダーのためのMBAプログラムです。



MBAコース授業一覧

### 実践知考具

マーケティングやファイナンスなどの縦割りの専門を融合した、スーパージェネラリストの知的問題解決の構えとツールを学び、実践力を鍛えます。

13フィールド	カリキュラム
志	●社会課題解決とグローバル・シチズンシップ ●実践知リーダーのための教養と対話型読書演習 ●「イノベーターシップ」の実践
イノベーション	●知識創造経営のプリンシプル ●イノベーションマネジメントシステム (IMS) と目的工学 ●デザイン思考ワークショップ ●シナリオプランニングワークショップ ●ビジネスモデルイノベーション ●イノベーターのための顧客創造戦略 理論と実践技法 ●チェンジマネジメント実践論 ●ナレッジマネジメント実践論 ●経営戦略概論 ●起業/社内起業の事業創造実践論 ●反直感的思考によるイノベーション実践法 ●「両利きの経営」の実践と組織開発
顧客創造	●マーケティングマネジメント概論 ●Webマーケティング戦略 ●プレミアム価値創造のブランド戦略 ●観光インバウンドマネジメント ●最新ロジスティクス戦略
リーダーシップと人事	●知識創造とSECIモデルの実践 ●ヒューマンリソース概論 ●MBB・思いのマネジメント実践 ●実践組織変革 ●実践ビジネスコーチング ●キャリアマネジメントとモチベーション ●実践ポジティブ心理学 ●ストレスマネジメントと精神回復力 ●オーセンティックリーダーシップ ●ケーススタディ 組織を動かす変革型リーダーシップ論
ファイナンス&ガバナンス	●コーポレートファイナンス基礎理論と実践 ●組織と戦略の経済学 ●行動経済学 ●マネジリアル・アカウンティング ●企業会計・簿記入門 ●財務分析 ●資産運用のファイナンス基礎理論 ●制度と法の経済分析入門 ●M&A戦略と実践企業ファイナンス ●中小企業の価値創造と事業承継 ●コーポレートガバナンスの理論と実務
データドリブン経営	●データ活用入門 ●統計的データ分析 ●データサイエンス・マーケティング実践 ●集中ゼミ(統計検定) ●DX変革:データサイエンスによる企業変革 ●クリティカルシンキング ●データドリブンの戦略構築 ●サービスサイエンス

### 最新ビジネス実践知

もはや表層的な知識では世界での勝負に勝てません。世界最先端のベストプラクティスとビジネスモデルを探求し、専門性の深化を図ります。

ヘルスケア	●医療・介護経営I・II ●医療・介護マネジメントの実践知 ●高齢社会のまちづくり ●地域包括ケアのビジネスモデル ●日本の製薬企業の未来 ●ヘルスケアビジネスイノベーション
ルール形成戦略	●社会課題と経済安全保障を巡るルール形成戦略 ●議院内閣制度における公的ルール形成プロセス論 ●ルール形成のためのメディア戦略 ●ルール形成戦略のBX(実践行動経済学) ●ツーリズムを通じた経済開発・人間開発論 ●戦略論と地政学
サステナビリティ経営	●ソーシャルビジネスの事業・資金計画 ●ソーシャルビジネス演習 ●トライセクターリーダー論 ●実践を通して学ぶソーシャルビジネス ●ベンチャー CFO養成講座 ●ソーシャル・ファイナンス ●まちづくり最新事情 ●ESG時代の「サステイナブル経営」の理論と実践 ●ステークホルダー経営の実践
テクノロジー&ベンチャー	●最新テクノロジーとAIの世界 ●SDGs(社会課題)×Techビジネス ●プロジェクトマネジメントの基本と応用 ●先端ITマーケティングイノベーション
アジアビジネス戦略	●世界潮流と企業戦略 ●日中企業比較論 ●日本企業の中国ビジネス

### 教養基盤

多摩大学大学院の捉える教養とは、ビジネス構想力の基盤です。時代認識をより深く、視界を広げることで、時代を見抜く目を養い、ビジネスチャンスを広げます。

本質思考力	●インターゼミ(寺島実部長ゼミ)I~IV ●フィールドスタディI~IV ●実践リベラルアーツ論 ●ビジネスリーダーのための実践的課題解決 ●21世紀の日本の社会課題 ●知識創造理論に基づくアートと戦略的直観
留学生支援	●留学生のための日本経済・経営基礎 ●ビジネスジャパニーズI・II ●論文スタートアップI・II ●ビジネスコミュニケーション日本地理・歴史総合I・II ●論文実践I・II

●...MBA選択必修科目 ●...MBA専門科目

標準修業年限 2年

修了要件 選択必修の単位を含む30単位以上の単位修得と、学位論文審査及び最終試験に合格すること

学位 修士(経営情報学)

講義時間帯 [月曜日~金曜日] 18:30 ~ 21:40 [土曜日・日曜日] 9:00 ~ 19:30

## 2年間の標準的な学修パターン

1年生		2年生	
1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
●MBA選択必修科目中心に履修 ●研究計画書	●MBA専門科目を中心に履修 ●各専任教授の論文演習ゼミ履修	●MBA専門科目を中心に履修 ●指導教員と個人研究活動	●学位論文予備審査会 ●学位論文最終試験
<p>多摩大学大学院MBAの基礎となる選択必修科目をはじめ、最前線で活躍する実務系教授陣から、『最新ビジネス環境への理解』、『実践知考具をもとにした知的課題解決力』、『社会を変革しようとする力』、『イノベーションを創り出す力』などの人生を拓く志と実践的スキルを身につけます。</p> <p>2 Semesterより論文演習が始まります。3日間の論文基礎講座で、学位論文の基本的な手法を学ぶと共に、授業の中で、先輩方の論文指導に参加することで、自身の論文の構成を構築していきます。3 Semesterより、指導教員、副指導教員の指導の下、学びの集大成として、学位論文を作成します。</p>			

イノベーターシップ人材

## 多摩大学大学院でしか学べない“3つの専門分野”

### データドリブン経営

Data-driven Management

データとAIの力を活用してデータドリブン経営での課題解決力を身につける

データドリブン経営の現場で活躍する実務家講師陣が、課題解決のノウハウを実践的に伝授。単なるAI適用ではなくビジネスでの現場の知をもとにしたデータ活用とAI活用について修得。IBMとの連携講座では最先端データドリブン経営を身につけることができます。

特長

- 1 データサイエンスによる“知の再武装”を図る
- 2 ビジネスデータの活用についてビジネスとアカデミック両面から学ぶ
- 3 世界水準のデータドリブン経営を学べるIBMとの連携講座の開設

### ルール形成戦略

Rule-Making strategy

イノベーションを世に輩出するためのルールを形成する

革新的な技術や製品、社会課題解決型事業モデル、それらが世の中に受け入れられる市場の新たなルールまで自ら構想し、組織力を動員してポリシーメーカーに対して適切なチャンネルでアドボカシーを展開して市場を創造する再現性のあるスキルを得ることができます。

特長

- 1 政産官学からルール形成戦略の第一人者が結集する教授陣
- 2 日本で初めて経済、外交、軍事を一体化した授業である安全保障経済政策を修得
- 3 実践的なフィールドワークを通じたポリシーメーカーとのネットワーク構築と政策形成プロセスへの深い理解

### サステナビリティ経営

Sustainability management

企業経営のサステナビリティとインパクトエコノミーを構想する

2015年のSDGs(持続可能な開発目標)の公表以降、ESG経営・SDGs経営、ソーシャルビジネス、パーパス経営、企業経営の持続可能性、ステークホルダー資本主義など、企業と社会との関係は大きく変貌を遂げています。本フィールドでは、こうしたサステナビリティ経営やソーシャルビジネス、ソーシャルファイナンスなどについて幅広く実践的に修得することができます。

特長

- 1 サステナビリティ経営、ソーシャルビジネスを体系的にまとめたコース
- 2 サステナビリティ経営、ソーシャルビジネスの第一人者が結集する教授陣とゲストスピーカー
- 3 サステナビリティ経営研究所のネットワークを通じたグローバルなネットワーク

※上記3つの分野の他、ヘルスケア経営専門として専門認定を受けることができます(修了時に学位記掲載)。

# リーダーシップを超えた [イノベーターシップ]を修得できる



## Innovatorship イノベーターシップとは

イノベーターシップとは、新しい世界を構想し、その実現に向けて自らのなすべきことを考え出し、主体的に実践していく力です。自社の経営目標を達成するだけでなく、マネジメントやリーダーシップを磨けば十分でしょう。しかし、本当に価値あるイノベーションを起こすためには、一線を画した力が必要です。未来を描き、ビジネスや事業を創出していく。そうした推進力を持ったリーダーたちのDNAがイノベーターシップといえます。

### ■ イノベーターシップに必要な5つの力

イノベーターシップを築くためには、相互に関連する5つの力が必要です。まず挙げられるのが「未来構想力」。どこへ向かって現実を変えたいのか、未来を描き出す力です。それは、論理や分析などからではなく、情熱や志からしか生まれません。「実践知」は、自分の生き様の中から紡ぎ出す知恵。真摯な挑戦や経験から学び、少しずつ輪郭をはっきりさせていくものです。当然、未来の構想が大きいほど、現実の壁は高いでしょう。その壁を乗り越えるためには「突破力」が欠かせません。力業で押し進んでいくだけでなく、腹のくくり方や政治力、発想力など、多面的な解決策でやり抜くことが重要です。「パイ(π)型ベース」とは、1つの専門だけではない幅広い教養を備えた知性のこと。多岐にわたる経験と豊かな知見、的確な判断が、世の中の縦割りの壁を壊すでしょう。そして、未来を実現するために仲間を巻き込み、メンバーをモチベートする力が「場づくり力」です。人がついていきたくなる資質とスキルが、大きな仕事を実現します。



## 日本発、世界的なイノベーション論「知識創造理論」の研究と実践展開をリードする本学教授陣

多摩大学大学院では「イノベーターシップ」をキーコンセプトに授業の体系を組んでいます。院生には、2年間の授業と論文作成を通じて、しっかりとイノベーターシップを身に着けて、羽ばたいていただきたいと考えています。

イノベーターシップとは端的にいえば、「熱い思いと実践知をベースに『ありたい未来』へ向けてイノベーションを起こそうと挑戦を続けるリーダーシップ」と定義しています。このイノベーターシップのバックボーンになっているのが、日本発の世界的イノベーション論である「知識創造理論」なのです。知識創造理論とは、対話や実践を通じた「暗黙知と形式知の往還運動(SECIモデル)」によって真善美・共通善に向かう「高質な知」を創造し、イノベーションを実現する方法論です。熱い思

いを持ったリーダーが多くの人を巻き込み、人生を賭けて挑戦するプロセスなのです。

知識創造理論は、一橋大学の野中郁次郎名誉教授によって発表され、世界的に多大な影響を与え、いまや世界中の多くの企業に採用されています。そしてその理論の発展・普及の中心メンバーとなって知識創造学派を形成しているのが、本学の紺野登教授、徳岡晃一郎教授であり、2023年度より川田英樹教授、荻原直紀教授が加わることで、本学は日本の一大拠点になります。

ぜひ、野中教授直伝の知識創造の手法を学び、イノベーターシップをご自身の人生のコアにさせていただきたいと思います。

### 知識創造学をリードする教授陣



紺野 登教授  
『知識創造経営のプリンシプル』担当



徳岡 晃一郎教授  
『「イノベーターシップ」の実践』担当



川田 英樹教授  
『知識創造とSECIモデルの実践』担当



荻原 直紀教授  
『チェンジマネジメント実践論』担当

## 知識創造学の実践、 発展の拠点として期待すること

イノベーターシップは多摩大学大学院の徳岡教授と私が、知を創造する実践知リーダーの特質を表すコンセプトとして開発しました。知的競争力が劣化した、今の日本に最も欠けているのが、イノベーションにチャレンジする熱い思いと実践知なのです。

私が長年、ともに研究してきた4人の気鋭の先生方が多摩大学大学院に集結したことは嬉しい驚きです。イノベーションについて、その本質から学べる極めて優れた場が誕生したと言えるでしょう。知識創造の最先端の場で実践的に学ぶことで、日本のイノベーションをリードする人材が品川から飛び立っていくことを確信しています。



野中 郁次郎  
NONAKA Ikujiro

Profile 1935年東京都生まれ。58年早稲田大学政治経済学部卒業。カリフォルニア大学バークレー校経営大学院にてPh.D.取得。現在、一橋大学名誉教授、日本学士院会員、中小企業大学校総長。2017年カリフォルニア大学バークレー校経営大学院より「生涯功労賞」を受賞。知識創造理論を世界に広めたナレッジマネジメントの権威。主な著書に『失敗の本質』(共著)、『The Knowledge-Creating Company』(共著、邦訳「知識創造企業」)、『The Wise Company』(共著、邦訳「ワイズカンパニー」)、『直観の経営』(共著、英訳「Management by Eidetic Intuition」)、『野性の経営』(共著)など多数。

# 一人ひとりの現実課題を解決する [ゼミと修論プロジェクト]



指導教員と取り組むビジネスの実践に根ざした学位論文(修士論文・実践知論文)は、自分を飛躍的に成長させるプロジェクトです。ここから話題のビジネス書が誕生することも！講師やクラスの仲間と共に自らの課題を徹底的に掘り下げるゼミは、手に汗握る白熱した授業。人生の指針や一生の宝が生まれることも珍しくありません。

## ■ 課題を掘り下げ、問題解決力を磨くゼミ

河野研究科長のゼミ(論文演習)においては、基本的に「実践知論文」を作成、提出することを勧めています。実践知論文は、単なる「知識の修得」ではなく、自身のこれまでの職業分野での経験を徹底的に振り返り、「職業的な智慧」の棚卸しができますからです。

そして、作成した論文は、そのまま新事業の事業企画書であり、事業革新の戦略提言書となるようなものにするをめざしています。その結果、ゼミを修了した院生の多くは、修了後も、その事業企画書や戦略提言書を実現するための活動に取り組んでいます。

## ■ 本質を提案する修士論文・実践知論文

多摩大学大学院の学位論文は、指導教員がテーマを選ぶのではなく、院生が自らのビジネス経験をもとに実践的視点で独自の課題を見つけて仮説を創り、検証、提言する点が特徴ではないでしょうか。

「論文不要」のビジネススクールもありますが、それでは知識を外から獲得するだけ。自ら知を紡ぎ出すことは大変な努力を要しますが、何にも代え難い「一生の宝」となります。紺野教授のゼミ(論文演習)では、個別指導とグループの対話を組み合わせた場を設けています。

## 志を込めた学位論文は、人生を変える行動計画書

在学生が実際に直面しているビジネスに関連するリアルな課題を研究テーマに、イノベーターシップの総仕上げとして、指導教員とともに実践知に根ざした本質探究&問題解決型の学位論文に取り組みます。2年間の学びを自分の血肉化し、修了後の人生を飛躍させる知の宝が得られます。

### 最優秀論文賞テーマ(2021年~2023年修了者)

#### 2023年

- 派遣労働者のワーク・エンゲージメント(活力・熱意・没頭)を高めるための要因は何か?
- 若手社員の自律的キャリア開発を支援するためにA社は組織として何が必要か
- 転職を重ねるプロセスで獲得されていくキャリア観の研究  
—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた比較研究—
- キャラクター商品が及ぼす消費経験価値
- 「日本復活への道 誰もが活躍できる多様性の受容」の一考察
- 地域課題解決型授業は、当校学生の医療コミュニケーションスキル(患者視点の理解)向上をもたらすか?
- 日本海運企業の経営者リーダー像  
逆境を乗り越えチャレンジし続ける人たち(経営史的考察より)
- G社の持続的成長を実現するための打ち手に関する考察  
ステークホルダーとともに創業100年を目指すために今、何をすべきか
- 事業創出に向けた組織内関係性の研究  
—レジリエンス効果を高めるには—
- A社が低成長から抜け出し事業成長するための戦略・イノベーションの提案
- 経済安全保障の視点で日米半導体摩擦を振り返る  
—日本企業には何が足りなかったのか—

#### 2022年

- 人の内面の多様性を活かすビジネスモデルの提案 ~弱さのデザイン~
- F社の化粧品事業の中東・アフリカの可能性と戦略について「IMENA」(中東と北アフリカ)を中心に
- エンターテインメント業界O社における両利きの経営に必要な組織マネジメントの考察 —ビヨンド・コロナ後を見据えた再興への提言—
- 地域の各主体が参画する電気媒介事業を起点とした地域づくり  
“神奈川県中郡大磯モデル”
- メディカルコミュニケーションのパラダイムシフトに向けて  
—製薬企業が果たすべき社会的役割とは—
- 健康経営における成功戦略 —従業員食堂を軸とした健康経営導入施策—
- 渡航移種の国内受入れ体制構築にむけての提言  
—生体ドナー腎移植のグローバル需要に応えるために—
- 中国における動物看護師の職業訓練の確立 —中国型チーム獣医療への試み—
- 都心で働く人と地方を結ぶ「働き方の価値創造」  
那須地域におけるワーケーション活用の考察
- ルール形成戦略で企業変革は可能なのか ~A社事例による検証と考察~
- 宿泊業におけるインセンティブ設計の研究 中規模地方ホテルにおいて非金銭的インセンティブに関する考察
- 社内制度を活用したポートフォリオ・ワーカーとしての社会起業  
—MRと薬剤師のライフシフト—
- 日本の長寿企業に関する一考察 ~中国の民営企業との比較を通じて~
- 知的障害者雇用を通じた社会の成長
- ビジネスモデル変革のためのデザイン思考 国内製造業のDXとビジネスモデル変革に向けたデザイン思考の導入方法と課題
- 「正義」は実装できるのか? ~自動運転車のトロック問題についての研究~

#### 2021年

- 転職のあり方 —製薬会社のMRに転職は必要か—
- 衰退を断ち切り活路を見出してきた企業の研究 ~Unfair AdvantageとPivotingによる飛躍モデル~
- ITエンジニアにおける仕事の意識と創造的行動についての因果関係モデルの構築 —マネジャーによる自律的成長の支援のための視座と方法—
- ポスト会社人生における中高年齢者のキャリア・ドライブ  
—仕事のかざぐるまについての考察—
- ポストコロナ時代におけるワークプレスの動向と新しいコワーキングプレイス事業の可能性探索
- データドリブンのリスク管理に関する研究
- 女性のキャリアにおける“マネジメント”の動機づけ  
—製薬企業T社 営業部門—
- 逆境活用実践経営の雑草戦略  
—眼科クリニックにおけるポジティブマネジメント—
- MRの新しい働き方「開業医コンサルジュ」  
—クリニックをサポートするためのビジネスプラン—
- 海外派遣人材の育成と配置 ~S社におけるグローバル人材活用の提言~
- K社・狭間世代の心理的安全性向上がもたらすイノベーション組織文化の変革
- 無床診療所における“ありがとう”のあふれる「自走する組織」構築の提言

## 最優秀論文賞を受賞した修了生3名が 多摩大学出版会から出版

人生100年時代が迫るなか、60歳定年を前提に仕事中心に生きてきた多くの中高年ビジネスパーソンたちが、キャリアの危機に直面している。100歳までの人生を社会的にも経済的にもそして精神的にも豊かに生きるには、キャリア寿命を延伸することが必要である。そのカギは学び直した。本書では、時代の変化に合わせて学び続けることを「終身知創」と呼び、修了生3名が執筆した学位論文を基に、その実践例と対策を紹介しています。

『終身知創の時代 終身雇用から終身知創へ 常に学び続ける新しい生き方』  
徳岡 晃一郎(著・編集), 名久井 康宏(著), 荒井 千恵(著), 上野 正之(著)  
(多摩大学出版会)2021/3/30刊行



## 自由度の高い履修プラン

学生それぞれの課題解決に向けて、段階的に系統立ったカリキュラムから講座を自由に組み立てることが出来ます。

## 在学生



星山 裕作さん

2022年4月入学

## Profile

早稲田大学卒業後、多摩信用金庫入庫。営業店で渉外部門を約4年担当した後、2018年1月より経営企画部門の経営戦略室へと異動。

## 【入学の動機】

信用金庫の経営企画部門に所属しています。新型コロナウイルスの影響もあり、金融機関においてもデジタル化、フィンテックの波が押し寄せています。こうした中、我々信用金庫も旧態依然としたサービスのみで良いわけがありません。地域の皆様に対して時代に即したサービスを提供していくためには“知の再武装”が必要と感じていたところ、上司から多摩大学大学院で学んでみないかという話があり、入学を決意しました。

## 【1年目の履修科目】

- マーケティングマネジメント概論
- インナーコミュニケーション
- ヒューマンリソース概論
- 最新テクノロジーとAIの世界
- データ活用入門

## 【入学後の実感】

実際に学び始めると、どの講義も非常に実践的で、とても学びがいがあります。教授陣はビジネスの最前線で活躍された方、また今も現役で活躍されている方ばかり。自身の経験やリアルタイムで起きている問題を題材にするので、「今、この場所でしか学べない」知識を得ることができます。デジタル化といった直近の課題だけでなく、「地域における今後の金融機関のあり方」など、広い視野でビジネスを考えられるようになりました。

## 【入学の動機】

企業グループの中でエンターテイメント部門の業務改善を担当。自社は3業態の店舗を全国展開していますが、さらなる業容拡大を目指していく中、私自身の経営に関する理論・知識の乏しさが起案と実践の障壁になっていると感じ、学び直そうと決意。多摩大学大学院は同世代の女性比率も高く、自社内でダイバーシティを進めるにあたり院生同士の交流で得た知見も活かせるのではないかと思い、入学しました。

## 【1年目の履修科目】

- 知識創造経営のプリンシプル
- キャリアマネジメントとモチベーション
- ヒューマンリソース概論
- 法の経済分析入門
- ビジネスモデルイノベーション
- ビジネスリーダーのための実践的課題解決
- インナーコミュニケーション
- ビジネス実践知探究

## 【入学後の実感】

理論に加え、最新の事例を交えた実践的な講義が多く、知識をすぐ実務に活用するということが少なくありません。多様な業種、年齢、役職の方とのディスカッションには多くの学びがあり、狭かった自分の視野を大きく広げてくれました。こうした経験から、仕事への向き合い方や考え方にも変化が生まれてきていると感じます。今後は学びを実践することで、自社のさらなる価値創造に貢献するつもりです。

## 1週間のスケジュール

月・火・水

勤務地が多摩地域で業務終了が17:00のため、平日は急いで自宅に帰り、18:30からの講義をオンラインで受講することがほとんどです。月・水が講義の週と火・水が講義の週と隔週で履修しており、木・金は休みになります。講義のない日は課題に取り組んだり、書籍を読んだりしています。

土・日

週末は、土曜日の午前中に隔週で講義があり、日曜日は休みです。子供はまだ小さいこともあり、週末の講義に関しても基本的にはオンラインで受講。移動にかかる時間も自宅での勉強に充てられるので、とても効率的です。「働きながら大学院に通う」と聞くとプライベートの時間がなくなるような印象がありますが、勉強の合間に家事を手伝うなど時間的なゆとりもあるので、妻もとても喜んでいます。

## 1週間のスケジュール

月～金

週の前半は仕事で忙しいため、早く帰れる日を予習・復習に充て、週の後半にかけて講義を受講しています。18:30スタートのため、帰宅後すぐにオンライン受講。また日中はスマホに課題や参考資料を入れておき、休憩時間に目を通すようにしています。

土

講義を履修していないので、午前中に家事を済ませ、午後は読書や課題の時間に充てています。指定書籍以外にも多くの書籍を紹介してもらっています。また日によっては外出するなど、バランスも心がけています。

日

13:00からの授業に参加。オンラインと通学は半々ぐらいですが、できるだけ通学しようと思っています。普段オンラインで接している同級生と対面で話せるのは嬉しいことです。講義後は課題や予習・復習に充てています。



Brush up Program for professional

文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム(BP)」として認定  
多摩大学大学院MBAは、文部科学大臣より「職業実践力育成プログラム(Brush up Program for professional)」の認定を受けています。厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携して、社会人の学び直しを支援しています。

厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」として認定  
多摩大学大学院MBAは、厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」の認定を受けております。本学にて指定講座を受講し一定の要件を満たす場合、最大112万円がハローワークより支給されます。

## 修了生



上野 正之さん

2020年3月修了

## JFEスチール株式会社

組織人事部  
主任部員(副部長)  
人材育成統括

## プロジェクトリーダー 編

## 【入学の背景】

初めて管理職を務めた際、自身の過去の業務経験を言語化できず、マネジメントに必要な知識の不足を痛感しました。体系的に学び直しをすることで「自分の言葉」を持ちたいと思ったのが入学理由です。多摩大学大学院の選択理由は、学びの幅の広さ、実践知にこだわる超実学志向、イノベーターシップといった個性的なコンセプトに強くひかれたからです。

## 経営トップ &amp; マネジメント層 編

## 【入学の背景】

経営に携わるようになり、これからの組織のあり方について考えるようになりました。ホクラシーやティール組織のような新しい組織論を調べていく中で、本学の教授が書かれた記事をいくつか拝見しました。大学院でこのような先進的な内容を学べるのがわかり、入学することを決意しました。

根岸 慶さん

2021年3月修了

## コンセントリクス・カタリスト株式会社

代表執行役員



山下 尚子さん

2019年3月修了

## 医療法人徳洲会 葉山ハートセンター

事務長

## 医療製薬ビジネスリーダー 編

## 【入学の背景】

医療機関は社会貢献・地域貢献という貢献事業であり、革新を念頭に進化し続けています。無資格者である事務職は、病院経営の要であるマネジメント力が必要です。自身のグレードアップが軸となり、「医療+MBA」を学べる体制や、知識労働者として実践的学問の修得と実践できる多摩大学大学院を選びました。その時、上司からは「ガラスの天井打破る」と大きな使命を賜りました。

## 1年目 春学期

- デザイン思考ワークショップ
- 社会課題起点のルール形成戦略
- ビジネス実践知探究

## 1年目 秋学期

- クリティカルシンキング
- ファイナンス基礎II(リスクマネジメント)
- カルチャーベースマネジメント

## 2年目 春学期

- 論文演習
- ヒューマンリソース概論I
- 知識創造経営のプリンシプル

## 2年目 秋学期

- 論文演習
- ヒューマンリソース概論II
- ケーススタディ 組織を動かす 変革型リーダーシップ論

## 【身に付いたスキル】

入学と同時に、社内で「働く文化を変える」組織開発のプロジェクトを立ち上げ、授業の学びを様々な場面で即実践することを心がけました。研究論文のテーマとしても深く掘り下げ、社内外に発表するという学びを通じ、自分の中にしっかりと深い実践の知恵を根付かせることができました。これら本学での学びを土台として、さらなる人間成長を遂げたいとの思いが強くなりました。

## 1年目 春学期

- マーケティングマネジメント論
- ビジネスモデルイノベーション
- ヒューマンリソース概論I

## 1年目 秋学期

- データドリブンの戦略構築
- サービスサイエンス
- 実践組織変革

## 2年目 春学期

- スーパージェネラリスト論
- シナリオプランニングワークショップ
- 論文演習I

## 2年目 秋学期

- イノベーターのための顧客創造戦略理論と実践技法
- ネオ・リベラルアーツ論
- 論文演習II

## 【身に付いたスキル】

3点あります。①体系立てた、実践的な知識を身につけることができたため、そのまま実務に取り入れることができた、②多摩大学大学院特有の「志」を講義を通じて人間成長を遂げることができ、困難な状況に真っ直ぐに向き合い、乗り越えることができるようになった、③論文作成を通じて、自社のビジネスをより客観的に見るができるようになった。

## 1年目 春学期

- 医療・介護経営I
- ストレスマネジメントと精神回復力
- イノベーションと目的工学

## 1年目 秋学期

- 医療・介護経営II
- 医療・介護マネジメントの実践知
- クリティカルシンキング

## 2年目 春学期

- 高齢社会のまちづくり
- 地域包括ケアのビジネスモデル
- ヒューマンリソース概論I

## 2年目 秋学期

- 実践組織変革
- ヒューマンリソース概論II
- 論文演習I

## 【身に付いたスキル】

現在は、病院経営の参謀役として「組織形成」「問題・課題解決」「共創力・構想力」など大学院で学んだ力が基盤となり、組織を牽引する役割を実践しております。卒業後からが正に実践知の積み重ねとなり、大学院での学びの深堀りをするため新たな学修機会が習慣化するなど、より多くの方とのお縁もいただいております。自身のキャリアデザインを描けるよう、より前向きな人生を磨き続けています。



## 紺野 登 KONNO Noboru

**Profile** 多摩大学大学院教授、エコシラボ代表、一般社団法人 Japan Innovation Network (JIN) 代表理事、一般社団法人 Future Center Alliance Japan (FCAJ) ファウンダー。組織や社会の知識生態学(ナレッジエコロジー)をテーマに、リーダーシップ教育、組織変革、研究所などのワークプレイス・デザインなどの実務にかかわる。著書に『ビジネスのためのデザイン思考』、『知識デザイン企業』、『利益や売上げばかり考える人は、なぜ失敗してしまうのか(目的工学)』『イノベーション全書』、野中郁次郎氏(一橋大学名誉教授)との共著に『知力経営』、『知識創造の方法論』『知識創造経営のプリンシプル』、『知識経営のすすめ』『構想力の方法論』などがある。

## 「思い」を持った人材こそ 知識創造の原点

日本は今、世界がどんどんと結びついて共創するグローバルイノベーション時代のなかで次第に影が薄くなっています。もっと強いリーダー、もっと活性化した組織、もっと本質を深く考える知性と風土が必要です。それを阻んでいるのが短絡的な成果主義人事制度です。その問題はもう何年もの間、叫ばれてきましたが一向に改善されていません。むしろ欧米流の競争原理に基づく株主価値至上主義の前に組織の疲弊感は高まっています。

この打破のためには新しい人事とリーダーのありようを日本発で提示していかななくてはなりません。そしてVUCAの時代を生き抜く知識創造企業(Knowledge-creating company)に生まれ変わらねばなりません。本学では、成果主義に代わる新しい人事制度のコンセプトであるMBB(Management by Belief: 思いのマネジメント)を軸にして、リーダーシップ、人事制度、組織論、コミュニケーション、企業カルチャー、ストレスマネジメントなどを学修することで、活力ある知的組織を創る知恵を学びます。

担当科目 ▶ 「イノベーターシップ」の実践、MBB・思いのマネジメント実践、論文演習 他

## 創造経営の 「実践知(フロネシス)」の 理論と実践

イノベーションは、かつては技術革新や稀に起きるものと捉えられていましたが、21世紀の企業にとっては中核的な活動になっています。顧客や社会の意識やニーズを共感・洞察して、これまで競争や消費のなかったところに新たな価値を生み出していく、個と組織の知識創造経営の実践なのです。このカリキュラムでは、各テーマのマスターといえる教授陣が理論と実践の両輪でイノベーション経営のエッセンスを修得する場を提供します。すなわち、知識創造理論を基礎において、シナリオプランニングやデザイン思考、従来と異なる価値提供の仕組みとしてのビジネスモデルなど有効なツールについて学びます。リーダーが周囲を巻き込む目的を掲げて駆動するといった、人間としての「賢慮」や組織文化の理解も重要です。さらに経営戦略や経済学の観点からも考えること。これらが、みなさんのイノベーターとしての実践に役立つものと思います。

担当科目 ▶ 知識創造経営のプリンシプル/シナリオプランニングワークショップ 他



## 徳岡 晃一郎 TOKUYAMA Koichiro

**Profile** 東京大学教養学部国際関係論卒業。日産自動車人事部、オックスフォード大学留学、欧州日産を経て、1999年よりコミュニケーションコンサルティングで世界最大手の米フライシュマン・ヒラードの日本法人のSVP/パートナーとして人事制度、風土改革、社内コミュニケーション、レピュテーションマネジメント、リーダーシップ開発などに従事。2006年より多摩大学大学院を兼務。2014年研究科長就任。2017年に(株)ライフソフトを創業しCEOに就任。ライフソフト大学を開校。著書に『MBB: 思いのマネジメント』(野中郁次郎教授、一條和生教授との共著)、『イノベーターシップ』など多数。



## 田坂 広志 TASAKA Hiroshi

**Profile** 東京大学卒業。東京大学大学院修了。工学博士(原子力工学)。米国シンクタンク・パテル記念研究所・客員研究員を経て、日本総合研究所の設立に参画。取締役・創発戦略センター所長を務める。世界経済フォーラム(ダボス会議) Global Agenda Council元メンバー。東日本大震災に伴い内閣官房参与を務める。現在、シンクタンク・ソフィアバンク代表。世界賢人会議ブダベストクラブ日本代表。全国から7,000名の経営者やリーダーが集まり「21世紀の変革リーダー」への成長をめざす場、田坂塾の塾長。著書は100冊余。

## 顧客中心経営の基軸、 イノベーションとマーケティング の本質を学びます

「企業の目的は、顧客の創造である」。マネジメントの創造者であるドラッカー氏はこう指摘しました。さらに、そのための2つの基本機能として、マーケティングとイノベーションをあげています。「顧客の創造」こそ、経営の本質。その目的に直接成果をもたらす意味で、マーケティングとイノベーションは経営そのものといえるでしょう。逆に、「顧客の創造」機能が弱体化すると、企業の成長は望めません。長く続く日本企業や日本経済の低迷の本質的な問題もここにあり。今必要なのは、マーケティングとイノベーションを連動させた顧客創造力の強化と戦略自体の進化です。

当カリキュラムでは、ビッグデータなど最先端のテーマを織り込み、成果を上げるリーダーにとってパワフルな武器となる「顧客創造の経営戦略」の新しい枠組みと理論、現場で鍛えた実践知を身につけることができます。21世紀のリーダーに必須の経営戦略とスキルをぜひ一緒に学びましょう。

担当科目 ▶ ビジネスモデルイノベーション、マーケティングマネジメント概論 他

## 志、智恵、人間力を併せ持つ 「21世紀の変革リーダー」を 育成します

多摩大学大学院の建学の精神は、この社会の生々しい現実と格闘し、粘り強く、その変革を実現できる人材の輩出です。しかし、その人材とは、ただ一分野に秀でたエキスパートやスペシャリストではありません。そうした専門家の叢智を束ね、目の前の現実を変革するプロジェクトや組織、企業を統括し、牽引できる人材こそが、いま求められています。それは、言葉を換えれば、思想、ビジョン、志、戦略、戦術、技術、人間力という「7つのレベルの知性」を垂直統合して行動できる「スーパー・ジェネラリスト」の育成に他なりません。そして、このスーパー・ジェネラリストが身につけるべきは、単なる「知識」ではなく、「実学」としての人間学や組織学、世界観や歴史観、すなわち、21世紀の「新たな教養=ネオ・リベラルアーツ」です。それゆえ、このスーパー・ジェネラリストは、必ず、「21世紀の変革リーダー」として活躍していくでしょう。

担当科目 ▶ (特別講義) 21世紀の「新たな教養」とは何か  
—「ネオ・リベラルアーツ」の時代—



## 河野 龍太 KONO Ryuta

**Profile** 博報堂、博報堂ブランドコンサルティング、ITベンチャー数社の経営参画を経て、イノベーション&マーケティングの戦略コンサルティング会社、(株)インサイトリンクを設立、代表取締役社長。世界で最も影響力のある経営思想家を選ぶThinkers50(2015)にも選出されたイノベーション戦略の代表的指導者アレックス・オスターワルダー氏がCEOを務めるStrategyzerの日本人唯一の公認トレーナーとして、国内外企業の戦略プロジェクトや人材トレーニングを多数支援。早稲田大学法学部卒業。英国ウォーリック大学経営大学院でMBA取得。長崎市出身。



## 堀内 勉 HORIUCHI Tsutomu

**Profile** 多摩大学サステナビリティ経営研究所所長、一般社団法人100年企業戦略研究所所長、一般社団法人アジアソサエティ・ジャパンセンター理事、一般財団法人川村文化芸術振興財団理事、一般財団法人社会変革推進財団(SIIF)評議員、一般財団法人READYFOR財団評議員、学校法人田村学園理事・評議員、学校法人麻布学園評議員。東京大学法学部卒、ハーバード大学法律大学院修士、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム(東大EMP)修了。日本興業銀行、ゴールドマンサックス証券、森ビル専務取締役CFOなどを歴任。現在は作家兼書評家として活動しながら、複数企業の取締役や顧問を務めると同時に、資本主義、サステナビリティ経営、ソーシャルフィナンسなどの研究に従事。著書に『読書大全』『人生を変える読書』『資本主義はどこに向かうのか』『ファイナンスの哲学』『コーポレートファイナンス実践講座』などがある。

## 思いを知識に変え、未来を創る 実践知リーダーの本質を体感的に 学びます

主体的な思いがあって、知識は生まれ、そして未来は創られます。「No belief(思い・信念)、No knowledge(知識)、No future(未来)」です。想定外の状況に直面しても、リーダーは多様な人々とスクラムを組んで知を結集し、新たな未来を共創しなければなりません。組織的イノベーションプロセスでは、互いの共感から生成される「我々の思い」が源泉となって、世界に意味や価値をもたらす社会や組織の集合知が共創されます。そしてこの知識創造のプロセスを駆動するのが、「フロネティック(実践知の)リーダーシップ」です。本カリキュラムでは、様々な矛盾や葛藤を新しい価値創造の機会と捉え、主観と客観、感性と理性、直観と分析を総合する二項動態思考を、対話の場を重ねて体得していきます。目の前の現実「自分ごと」として向き合い、五感を駆使して直観し、日々の実践と反省の中で、新しい仮説を生成し、「より善い未来」に向かう実践知を共に身体化していきましょう。

**担当科目** ▶ 知識創造とSECIモデルの実践、社会課題解決とグローバル・シチズンシップ、論文演習 他

## 社会的価値実現のための 新しい「金融」と、その実践を 可能にする「教養」を学びます

国連が2015年にSDGs(持続可能な開発目標)を提唱して以降、世界の企業経営のあり方は、新自由主義的な株主至上主義からステークホルダー資本主義へと大きく方向転換しています。企業の存在意義についても、単なる企業価値の向上や企業目的の追求から、社会に受け入れられる「良き市民」としてのパーパス経営に舵を切っています。

同時に、金融の世界的な潮流も、リスク・リターンだけの二軸で見るコーポレートファイナンスから、それに社会的価値の実現を含めた三軸で見るソーシャルファイナンスに転換しつつあります。

本学では、こうした新しいサステナビリティ経営やソーシャルファイナンスのエコシステム構築に資するシンクタンクとしてサステナビリティ経営研究所を設立し、この分野におけるソートリーダー(thought leader)となるべく活動を展開しています。

本学大学院のカリキュラムにおいては、ソーシャルビジネスとソーシャルファイナンスの実践、目指すべき社会的価値(公共善)の発見、そしてその前提としての幅広い教養の修得に向けた実践知の講座を開講しています。

**担当科目** ▶ ソーシャルビジネスの事業・資金計画、コーポレートファイナンス基礎理論と実践、実践知リーダーのための教養と対話型読書演習、論文演習 他



## 川田 英樹 KAWADA Hideki

**Profile** 株式会社フロネティック代表取締役。高校卒業後、カリフォルニア州ロサンゼルスへ留学。UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)でAstrophysics(天体物理学)を専攻し、卒業。2000年、一橋大学大学院国際企業戦略研究科国際経営戦略コース(現・一橋ビジネススクール国際企業戦略専攻[一橋ICS])に第一期生として入学し、MBAを取得。2003年、同コースの博士課程に進み、2008年、DBA(Doctor of Business Administration:経営学博士)を取得。2012年6月、より多くの「実践知のリーダー」が育つ“場”を国内外で提供するため、株式会社フロネティックを設立。著書に、『野性の経営 極限のリーダーシップが未来を変える』(野中郁次郎・川田弓子との共著、2022年、KADOKAWA)、『世界を驚かせたスクラム経営 ラグビーワールドカップ2019 組織委員会の挑戦』(共著、2023年近刊、日経BP 日本経済新聞出版)がある。



## 荻原 直紀 OGIWARA Naoki

**Profile** Babson College MBA首席卒業、慶應義塾大学法学部卒。ナレッジ・アソシエイツ・ジャパン代表、(一社)知識創造プリンシプルコンソーシアム共同代表。ナレッジマネジメント、組織変革、イノベーション経営の実践・支援・研究に20年以上関わり、数多くの大手企業・国際機関・政府機関の経営改革を支援。世界銀行(ワシントンDC)上級知識経営担当官、アジア生産性機構 調査企画部長などを歴任。世銀では2011-14年にかけて、機構改革とナレッジマネジメントを推進。現在、(一社)Japan Innovation Network IMSAPスタジオディレクターとしてイノベーションマネジメントの国際規格(ISO56002)、BSIジャパン講師としてナレッジマネジメント(ISO30401)の普及に努める。著書・共著に『ダイナモ人を呼び起こせ』(日経BP)、『中小企業のためのナレッジ・マネジメント事例集』(アジア生産性機構)など。

## ビジネスの問題解決にデータを 活かせるビジネスパーソンへ

それは、データをもとにして、ビジネスの「なぜ?」に答え、みんなを「どうするか」を説得し、「なるほど」と納得させて課題や問題を実践的に解決することができる力です。

ビッグデータ業務は垣根なく出現し、その結果ビジネスや社会をよりよくするために、ビッグデータをもとに考え意思決定を行うことは必然となりました。

ビジネスでの課題解決・問題解決において、デジタルビッグデータを利活用することは当然になりましたが、ビジネスの現場での課題解決や問題解決には結びつかないことがあります。それは、ビジネス現場で何が問題になっているかという「ビジネスの理解」、「データの背景理解」ができる力が重要だからです。

データドリブン経営フィールドでは、ビジネス現場に携わるすべてのビジネスパーソンにこそ、ツールを活用しながら「データの背景理解」ができる力をもとにしたデータサイエンス力を修得し、現場での課題解決のために解決策を提案して実施できるITプロジェクトマネージャー・デジタルマーケター・データエンジニア・データサイエンティストなどになってほしいと考えています。

**担当科目** ▶ データ活用入門/集中ゼミ(統計検定)/論文演習 他

## 知をベースにした経営の勘所と、 変革リーダーの実践知を 身につける

これまで数多くの企業変革に伴走してきましたが、成功した変革物語には例外なく「思いのある変革リーダー」と「変革にコミットする経営者」がセットで存在しました。途上国の開発支援を行う世界銀行で機構改革を推進した際には、人の行動と組織文化を変えるのがここまで難しいかと悩み抜きました。その際に手がかりになったのは、経営変革の現場で得た実践知とMBAで学んだ理論でした。

現代の日本企業・組織は、知識時代にいるにもかかわらず、工業化時代の原則に基づいた経営を続け、成果を出せずに苦しんでいます。業種や業界に関わらず、知をベースとした経営への変革が求められているのです。そのためには、ホリスティックに経営システムを見る力と、長い変革の道のりを制御するチェンジマネジメントの能力が欠かせません。これからのリーダーに必ず求められる、「変化を起こしてマネージし、そこから新たな価値を生み出す実践能力」を一緒に身につけていきましょう。

**担当科目** ▶ チェンジマネジメント実践論、知識資産マネジメント実践論、論文演習 他



## 今泉 忠 IMAIZUMI Tadashi

**Profile** 立教大学社会学部産業関係学科卒。立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士前期課程修了(社会学修士)。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。青山学院大学理工学部経営工学科助手を経て、多摩大学助教授・大学院助教授。1995年多摩大学教授・大学院教授。多摩大学経営情報学部学部長(2001年から2006年)を経て現職。日本分類学会会計監事。

## 教員紹介

<b>宇佐美 洋</b> 名誉／特任教授 USAMI Hiroshi	<b>担当科目</b>	法の経済分析入門 他
---------------------------------------	-------------	------------



【**学歴**】東京外国語大学。東京大学大学院法学政治学研究所卒。【**経歴**】国連世界食糧計画(WFP)企画担当官、保険担当官、特別顧問を歴任。日本取引所グループ東京商品取引所(旧東京工業品取引所)調査課長。一橋大学商学部客員教授、青山学院大学大学院客員教授、2004年4月より多摩大学大学院教授。2023年4月より多摩大学大学院名誉教授／特任教授。専門は金融、法と経済学、統合リスク管理。【**主な著書**】「先物とオプションの世界」、「入門先物市場」、「商品デリバティブ」、「金融市場の経済学」、「ベアリングス崩壊の真実」、「市場と取引」。

<b>真野 俊樹</b> 特任教授 MANO Toshiki	<b>担当科目</b>	医療・介護経営Ⅱ 他
-----------------------------------	-------------	------------



【**学歴**】1987年名古屋大学医学部卒業。医師、医学博士、経済学博士、総合内科専門医、MBA。【**経歴**】臨床医、製薬企業のマネジメント、大和総研主任研究員などを経て、多摩大学大学院特任教授。中央大学大学院教授、厚生労働省独立行政法人評価有識者委員などを兼務。医療・介護業界にマネジメントやイノベーションの視点で改革を考えている。【**主な著書・論文**】「はじめての医療経営論」2020年12月16日(有斐閣)／「医療マーケティング第三版」2019年7月18日(日本評論社)／「医療危機—高齢社会とイノベーション」2017年8月18日(中公新書)／「比較医療政策」2013年3月1日(ミネルバ書房)

<b>浜田 正幸</b> 教授 HAMADA Masayuki	<b>担当科目</b>	実践組織変革
------------------------------------	-------------	--------



【**経歴**】多摩大学大学院・多摩大学経営情報学部教授。早稲田大学大学院で心理学を研究の後、(株)本田技術研究所で自動車レースの最高峰F1プロジェクト参画、(株)野村総合研究所にて人事・組織系の経営コンサルタント。その後ベンチャー企業を数社創業・立上げ。2006年より現職。現役経営コンサルタント。最近は人間心理や脳科学に基づいたOD(組織開発)コンサルティングを多数手掛ける。「日本の『働く』をおもしろくする」をミッションとして、研究と実践に精進。

<b>佐々木 弘明</b> 特任教授 SASAKI Hiroaki	<b>担当科目</b>	ヒューマンリソース概論 他
--------------------------------------	-------------	---------------



【**学歴**】神戸大学大学院経営学研究科修了。【**経歴**】北海道拓殖銀行の破綻経験、藤沢薬品工業の合併経験、アステラス製薬の「明日は変えられる」プロジェクトリーダーを経験。2010年コーチングアワード受賞。2014年田辺三菱製薬のキャリア形成支援厚生労働大臣賞受賞。「経験を理論に、理論を実践に」が教育方針。経営戦略に資する人事戦略を標榜し、採用・育成・評価・配置・タレントマネジメントを学ぶ。人の資本経営とは何か？HRBP及びCHROは何をすべきかを広く深く実践的に学んでいきます。神戸大学院名誉教授金井壽宏氏に師事し、コミットメント、モチベーション、キャリアが専門分野。

<b>橋本 大也</b> 客員教授 HASHIMOTO Daiya	<b>担当科目</b>	先端ITマーケティングイノベーション
--------------------------------------	-------------	--------------------



【**経歴**】起業家としてビッグデータの分析ソリューションのデータセクション株式会社を創業し15年目に東証マザーズに上場させた。ITイノベーションの創造と実践を研究。デジタルハリウッド大学教授・図書館長。早稲田情報技術研究所取締役。【**主な著書・論文**】著書に『英語は10000時間でモノになる』『データサイエンティスト』『情報力』『Web時代の羅針盤 213冊』『ブックビジネス2.0』『新・データベースメディア戦略』、翻訳書に『アナロジAの次に来るもの』などがある。

<b>藤本 江里子</b> 客員教授 FUJIMOTO Eriko	<b>担当科目</b>	中小企業の価値創造と事業承継
--------------------------------------	-------------	----------------



【**学歴**】立命館大学文学部卒業。立命館大学大学院にて法学修士を取得。【**経歴**】税理士・中小企業診断士・FBAファミリービジネスアドバイザー上級資格認定証保持者。都市銀行、会計事務所、コンサルティング会社を経て、現在は中小企業経営者のあらゆる悩みに応えるためのコンサルティングを行う。得意分野は、事業承継、組織再編成、M&A、公益法人等の会計・税務、補助金申請サポートなど。【**主な著書・論文**】『合同会社の設立・登記・運営がまるごとわかる本』日本法令書、2019。(税務監修)／『実践ガイド企業組織再編成税制』清文社、2017。(共著)

<b>金 美徳</b> 教授 KIM Mitoku	<b>担当科目</b>	世界潮流と企業戦略 他
------------------------------	-------------	-------------



【**学歴**】1962年兵庫県生まれ。早稲田大学大学院国際経営学修士・国際関係学博士課程修了。【**経歴**】(株)三井物産戦略研究所、三井グループ韓国グローバル経営戦略研究委員会委員を経て、多摩大学 経営情報学部 教授・同大学院経営情報学研究所(修士・博士課程)教授。専門は国際経営学・国際関係学、研究領域は企業戦略・グローバル組織人事・朝鮮半島・アジア経済。「文科省大学の世界展開力強化事業」岡山大・吉林大・成均館大キャンパスアジア推進メンバーなど歴任。学会・大学やシンクタンク・企業など国際情報ネットワークを駆使して研究教育活動を展開する。【**主な著書・論文**】『キャンパスアジア共通教科書：これからの日中韓経済学』など著書11冊、論文・論考200本、講演約70回、メディア出演多数。

<b>久保田 貴文</b> 教授 KUBOTA Takafumi	<b>担当科目</b>	統計的データ分析 他
-------------------------------------	-------------	------------



【**学歴**】岡山大学環境理工学部卒、同大学大学院自然科学研究科修了。2012年に同大学大学院環境学研究科において博士(学術)を取得。【**経歴**】岡山大学法学部(同大学大学院社会学文化科学研究科)助手・助教。統計数理研究所リスク解析戦略研究センター特任助教。2014年より多摩大学経営情報学部准教授、2023年より同教授。日本計算機統計学会評議員。日本分類学会評議員、企画担当幹事。

<b>長島 剛</b> 教授 NAGASHIMA Tsuyoshi	<b>担当科目</b>	まちづくり最新事情
--------------------------------------	-------------	-----------



【**学歴**】法政大学大学院社会学研究科修了。【**経歴**】多摩中央信用金庫(現多摩信用金庫)入庫。価値創造事業部部長、地域連携支援部長、融資部部長。2010年多摩市・多摩信用金庫・多摩大学の三者による「多摩市創業支援事業連携協定」締結をはじめ、多摩地域の市町村や大学・高専等との地域連携の責任者。公益社団法人日本フイランソロピー協会理事。多摩CBネットワーク世話人。Facebookグループ「多摩エリアに اینجا」管理人。2018年より、多摩大学総合研究所客員教授、2019年より多摩大学教授(多摩信用金庫より出向)。

<b>金野 索一</b> 特任教授 KONNO Sakuichi	<b>担当科目</b>	SDGs(社会課題)× Tech ビジネス 他
-------------------------------------	-------------	-------------------------



【**学歴**】コロンビア大学国際公共政策大学院修士課程修了。【**経歴**】上智大学・明治大学兼任教員、日本政策学校学長。ForbesJapanオフィシャルコラムニスト、(株)ガイテック代表取締役、一般社団法人ピーステックファウンデーション代表理事。過去に(株)大前アンドアソシエイツ・パートナー、(株)ビジネスブレイクスルー取締役等を歴任。【**主な著書・論文**】主な著書『未来の選択』(ディスカヴァー 21社)、『ネットビジネス勝者の条件』(ダイヤモンド社)他。主な連載『トライセクターリーダーの時代』(日経ビジネス・カンパネラ)、『出でよ! Peace Tech イノベーター』(日経ITプロ)、『テックで資本主義をアップデートする』(Forbes Japan)他

<b>石井 富美</b> 客員教授 ISHII Fumi	<b>担当科目</b>	地域包括ケアのビジネスモデル
---------------------------------	-------------	----------------



【**学歴**】東京理科大学理学部卒、多摩大学大学院経営情報学専攻修了(MBA)。【**経歴**】民間企業でソフトウェア開発のSEとして勤務した後に医療介護分野に転身し、電子カルテの導入や新規事業企画、病院経営管理等を行った。現在は医療介護事業の経営サポート、経営人材育成活動を行いながら、関西学院大学大学院「地域医療経営」の担当講師、複数の都市のまちづくり事業のアドバイザーなども務めている。【**主な著書・論文**】(書籍)『経営企画部門のマネジメント』『医療・介護制度改革へ向けた病院経営戦略』など多数 / (論文)『経営改善のための情報提供と新規事業プロジェクトへのアプローチ』(医療情報学会)など多数。

<b>柯 隆</b> 客員教授 KE Long	<b>担当科目</b>	日中企業比較論
----------------------------	-------------	---------



【**学歴**】愛知大学法経学部入学。1992年、同大卒業。1994年、名古屋大学大学院修士課程修了(経済学修士号取得)。【**経歴**】長銀総合研究所国際調査部研究員(1998年まで)。1998年より富士通総研経済研究所主任研究員、2006年より主席研究員、2018年より東京財団政策研究所主席研究員。【**主な著書・論文**】著書に「中国の不負債権問題」(日本経済新聞出版社、2007年)、「中国『強国復権』の条件「一帯一路」の大望とリスク」(慶応義塾大学出版会、2018年、第13回櫻山純三賞受賞)、「ネオ・チャイナリスク」研究「ヘゲモニーなき世界の支配構造」(2021年、慶応大学出版会)ほか多数。

<b>加藤 雅則</b> 客員教授 KATO Masanori	<b>担当科目</b>	「両利きの経営」の実践と組織開発
------------------------------------	-------------	------------------



【**学歴**】慶應義塾大学経済学部卒、カリフォルニア大学バークレー校経営大学院経営学修士(MBA)、高野山大学院密教学修士。【**経歴**】日本興業銀行、環境教育NPO、投資育成会社を経て、株式会社アクション・デザインを設立。2000年以来、上場企業を中心とした人材開発・組織開発に従事する。経営陣に対するエグゼクティブ・コーチングを起点とした対話型組織開発を得意とする。「両利きの経営」の提唱者であるチャールズ・オリイ教授(スタンフォード大学ビジネススクール)の日本における共同研究者。IESE(イェセ)ビジネススクール客員教授。【**主な著書・論文**】『両利きの組織をつくる』、「組織は変わるか」、「AGC Inc. in 2019」, Stanford Business School Case, OB#103」など。

<b>柏木 吉基</b> 客員教授 KASHIWAGI Yoshiki	<b>担当科目</b>	クリティカルシンキング
--	-------------	-------------



【**学歴**】慶應義塾理工学部卒、米国Emory University MBA、Harvard business school(Data science for business)。【**経歴**】日立製作所、日産自動車を経てデータ&ストーリー LLC代表。多業種にわたる企業自治体に対し、主にデータ分析を武器とした課題解決や変革を実務経験者コンサル、スキルトレーナーとしてサポート。日産では海外部門、組織開発部ビジネス改革チームマネージャ等を歴任し、多数の社内変革プロジェクトをリード。【**主な著書・論文**】『それ、根拠あるの?と問わせないデータ・統計分析ができる本』他著書多数。

<b>津田 真吾</b> 客員教授 TSUDA Shingo	<b>担当科目</b>	反直感的思考によるイノベーション実践法
-----------------------------------	-------------	---------------------



【**学歴**】早稲田大学理工学部卒業。【**経歴**】日本アイ・ビー・エム/米国IBMにてハードディスクの研究開発に携わり、パソコン黎明期をエンジニアとして過ごす。電気・制御・ソフトウェア・機械設計などにわたる18の特許を取得。コンサルティング会社を経てINDEE Japanを共同創業。クリステンセン氏設立のコンサルティングファームとも提携、破壊的イノベーション、ジョブ理論を活用したコンサルティングおよびスタートアップの投資・支援を行っている。代表的な投資先にはUbie、MENOU。【**主な著書・論文**】『ジョブ理論』日本語版解説、『「ジョブ理論」完全理解読本』執筆、『巻き込む力』の翻訳。

<b>荻野 淳也</b> 客員教授 OGINO Junya	<b>担当科目</b>	オーセンティックリーダーシップ
----------------------------------	-------------	-----------------



【**経歴**】外資系コンサルティング会社を経て、複数のベンチャー企業での取締役など、20年以上の企業経営、組織マネジメントの経験を踏まえ、リーダーシップ開発、組織開発の分野で、コンサルティング、トレーニング、エグゼクティブコーチングに従事している。【**主な著書・論文**】著書:『マインドフルネスが最高の人材とチームをつくる』(かんき出版)、「世界のトップエリートが実践する集中力の鍛え方」(共著:日本能率協会マネジメントセンター)、「監訳:『サーチ・インサイド・ユアセルフ』(チャディ・メン・タン:英治出版)、「マインドフル・リーダー」(マイケル・キャロル:ソフトバンクパブリッシング)など。

<b>山本 伸</b> 客員教授 YAMAMOTO Shin	<b>担当科目</b>	ヘルスケアビジネスイノベーション
-----------------------------------	-------------	------------------



【**学歴**】名古屋大学大学院修了(博士:工学)。【**経歴**】シミックホールディングス株式会社CEO Office/ CAN Unit。外資系メーカー3社15年での医療機器開発・薬事経験、医療法人での組織・人材開発経験を基にした異業種創型イノベーションの実践家。シミックでは全社向けビジネスデザイン教育、認定プログラムの運営を統括。テクノロジと人財を融合した新規事業開発にも携わる。一般社団法人ビジネスモデルイノベーション協会理事。名古屋大学産学官連携推進本部客員准教授。【**主な著書・論文**】イノベーションの迷路(ハイス・ファン・ウルフェン著、三宅泰生・山本伸監修)

<b>角井 亮一</b> 客員教授 KAKUI Ryoichi	<b>担当科目</b>	最新ロジスティクス戦略
------------------------------------	-------------	-------------



【**学歴**】上智大学経済学部経済学科(田中利見ゼミ)を3年で単位取得終了し、渡米。米国ゴールデンゲート大学からマーケティング専攻でMBA取得。【**経歴**】船井総合研究所に入社。その後、家業の物流会社、光輝グループに入社。2000年2月14日、国内トップクラスの通販専門物流代行会社の株式会社イー・ロジック創業。2021年3月東証スタンダードに上場。また、タイでは、国内400店舗を有するSHIPPOPなど設立。テレビ、ラジオなどのコメンテーター多数。【**主な著書・論文**】著書は日米中韓台越で40冊以上。「日経文庫 物流がわかる」「すごい物流戦略」(PHP新書)「物流改善の進め方」(かんき出版)

<b>本荘 修二</b> 客員教授 HONJO Shuji	<b>担当科目</b>	起業／社内起業の事業創造実践論
----------------------------------	-------------	-----------------



【**学歴**】東京大学工学部卒業、ペンシルベニア大学経営学修士、早稲田大学博士(学術:国際経営)。【**経歴**】ボストン・コンサルティング・グループ、CSK/セガ・グループ大川会長付などを経て、現在、本荘事務所代表(経営コンサルタント)。構造計画研究所社外取締役、厚生労働省・医療系ベンチャー振興推進会議座長、IPA未踏アドバンスト事業審査委員、新事業を中心に日米の企業アドバイザーなどを務める。【**主な著書・論文**】単著「大企業のウェブはなぜつまらないのか」「IT情報の虚と実」、共著「エコシステム・マーケティング」「成長を創造する経営」「日本的経営を忘れた日本企業へ」等。監訳「ザッポス伝説」「ザッポス伝説2.0」他。

<b>中野 未知子</b> 客員教授 NAKANO Michiko	<b>担当科目</b>	サービスサイエンス
--------------------------------------	-------------	-----------



【**学歴**】立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科専攻博士前期課程修了。【**経歴**】(株)One Vision ファシリテーター。2000年よりトランスコスモス(株)で金融、メーカー、通信等のカスタマー領域において、事業所の立上げ、オペレーションマネジメントを担当後、テキストマイニングを用いた顧客コミュニケーションシナリオの設計や改善に従事した。現在は、ビジネスモデルを対象とした問題設定・解決、会議ファシリテーション、ワークマネジメント等の研修プログラム設計・登壇や、AI・機械学習活用のための課題設定ワークショップのファシリテーターを務める。

<b>真壁 昭夫</b> 客員教授 MAKABE Akio	<b>担当科目</b>	行動経済学 他
----------------------------------	-------------	---------



【**学歴**】一橋大学商学部卒業、ロンドン大学経営学部大学院卒業。【**経歴**】第一勧業銀行(現みずほ銀行)入行、メリルリンチ社ニューヨーク本社出向。みずほ総研主席研究員、信州大学経済学部教授などを経て、2017年4月より法政大学大学院政策創造研究科教授。2022年4月より多摩大学大学院特別招聘教授。【**主な著書・論文**】著書は「下流にならない生き方」「行動ファイナンスの実践」「はじめての金融工学」など多数。

<b>井村 順子</b> 客員教授 IMURA Junko	<b>担当科目</b>	企業会計・簿記入門 他
----------------------------------	-------------	-------------



【**学歴**】横浜国立大学経済学部卒業。【**経歴**】公認会計士。大手監査法人の監査部門のパートナーとして、長年にわたって幅広い業種にわたる上場企業等の法定監査だけでなく、企業の上場支援業務にも多数従事したほか、女性経営者を支援するネットワークのメンバーとして活動した経験を持つ。2018年に独立開業し、現在は、会計関連の企業研修の講師としても活躍中である。

<b>新村 和大</b> 客員教授 SHIMMURA Kazuhiro	<b>担当科目</b>	ベンチャー CFO養成講座
--	-------------	---------------



【**学歴**】京都大学経済学部卒業、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了(MBA)。【**経歴**】一般社団法人スタートアップ・リーダーシップ・プログラム・ジャパン代表理事。様々な業界のベンチャー企業を経営し、3度のExitを経験。創業期の戦略、財務、組織構築を強みとする。現在は株式会社No.1(東証スタンダード/3562)社外取締役など、数社で取締役を兼任し、京都大学、慶應義塾大学でも講義を担当。令和元年、内閣府 総務省を受章。【**主な著書・論文**】『ベンチャーファイナンスの思考と技術』(一般社団法人日本CFO協会 機関誌『CFO Forum』)

<b>矢萩 邦彦</b> 客員教授 YAHAGI Kunihiko	<b>担当科目</b>	実践リベラルアーツ論
--------------------------------------	-------------	------------



【**経歴**】1995年より教育・アート・ジャーナリズムの現場でバラレルカリア×ブレインガマネージャとしてのキャリアを積み、1つの専門分野では得にくい視点と技術の越境統合を探究するアルスコンビネーター。2万人を超える直接指導経験と多様な企業へのコンサルティング経験を活かし「すべての学習に教養と哲学を」をコンセプトに学校・民間を問わず多様な現場で授業・講演・研修・監修顧問などを展開。企業や学校と連携し、これからの時代を豊かに生きるための「リベラルアーツ」と「日常と非日常の再編集」をテーマに住まい・学校職場環境・サードプレイス・旅のトータルデザインに取り組んでいる。【**主な著書・論文**】『自分で考える力を鍛える 正解のない教室』(朝日新聞出版)ほか多数。

## 教員紹介

片岡 裕司 客員教授 KATAOKA Yuji	担当 科目	キャリアマネジメントとモチベーション
----------------------------	----------	--------------------



【学歴】多摩大学大学院にてMBA取得。【経歴】アサヒビール株式会社、同社関連会社でのコンサルティング部門を経て独立。現在は、(株)ジェイフィール 取締役コンサルタント。人事・人材開発領域を中心とし、組織開発プロジェクトやマネージャー向けのトレーニングをコアに、特に現在はキャリア開発力強化を軸とした組織風土改革に取り組む。【主な著書・論文】著書に『何とかしたい「ベテラン社員」がイキイキ動き出すマネジメント』『週イチ・30分の習慣でよみがえる職場』『目標が持てない時代のキャリアデザイン』(共に日本経済新聞出版)

黒田 由貴子 客員教授 KURODA Yukiko	担当 科目	ステークホルダー経営の実践
------------------------------	----------	---------------



【学歴】慶應義塾大学経済学部卒。ハーバード大学経営学修士(MBA)。【経歴】ソニー、米系経営コンサルティング会社を経て、(株)ビーブルフォーカス・コンサルティングを創業し、18年間、代表取締役社長を務める。同社にて、企業のリーダー育成と組織開発に従事。2012年に次世代に経営を譲り、ファンダー・取締役となる。同社のBコープ認定取得(2023年)を主導。2010年以降、様々な上場企業の社外取締役に就任し、ステークホルダー経営を促進している。難民支援などの国際的人道支援活動にも参加。【主な著書・論文】『リーダーシップ論』(ジョン・コッター著、監訳)、『ファンダー型リーダーの時代』(フラン・リース、翻訳)、『組織開発ハンドブック』(共著)など

栗山 実 客員教授 KURIYAMA Minoru	担当 科目	データドリブンの戦略構築
------------------------------	----------	--------------



【学歴】東京大学理学部物理学科卒業、同大学院修了、修士(理学)。【経歴】マッキンゼー・アンド・カンパニーでの戦略コンサルティング業務に従事を経て独立、株式会社アンテカニス(個人事務所)代表。「経営戦略」×「データサイエンス」×「イノベーション」×「リーダー育成」を専門領域とし、データ技術を前提とした戦略策定やイノベーション創出を支援。イノベーション・HR・ヘルスケア・物流など各分野で、データ技術を基軸とするスタートアップ各社で創業期からレイダーステージまで、共同創業者・取締役・データサイエンス統括等を歴任。2015年より多摩大学大学院客員教授・グローバル経営大学院教員。

村上 誠典 客員教授 MURAKAMI Takafumi	担当 科目	ESG時代の「サステナブル経営」の理論と実践
---------------------------------	----------	------------------------



【学歴】東京大学卒、同大学院工学系研究科航空宇宙工学修了【経歴】東京大学 / 宇宙科学研究所(現JAXA)にて衛星・深宇宙探査機等の研究開発を経験後、ゴールドマン・サックスの日本・英国オフィスにて投資銀行業務に長年従事。シニアを起業、VC及び国内初のグロースキャピタルを創業。有望スタートアップ/ヘリッド投資を数多く実行し、エンゲイジメント活動を実施。企業経営、コーポレート・ファイナンス、ESG、M&A、資本市場の専門家としてユニコーン企業やポスTPOスタートアップの取締役に歴任【主な著書・論文】『サステナブル資本主義5%の「考える消費」が社会を変える

富島 佑允 客員教授 TOMISHIMA Yusuke	担当 科目	資産運用のファイナンス基礎理論
--------------------------------	----------	-----------------



【学歴】京都市立大学理学部卒業、東京大学大学院理学系研究科修了(修士:理学)、一橋大学大学院国際企業戦略研究科修了(金融戦略・経営財務MBA)。【経歴】資産運用を専門とするクオンツ。データサイエンティスト。CFA協会認定証券アナリスト。みずほ銀行(信用デリバティブ投資・日本株投資)、米ヘッジファンド、米系保険会社を経て現職は東京海上日動の運用部門。【主な著書・論文】『投資と金融がわかりたい人のためのファイナンス理論入門』(CCCメディアハウス)、『資産が自動的に増えるインデックス投資入門』(日本実業出版)、『数学独習法』(講談社現代新書)など。

佐藤 勝彦 特任教授 SATOH Katsuhiko	担当 科目	留学生のための日本経済・経営基礎
-------------------------------	----------	------------------



【学歴】横浜国立大学商学部卒。【経歴】69年日産自動車入社。以降人事部門を中心に経験を積む。イリノイ大学院留学後、米国製造会社、米国設計開発会社の設立に参画。本社人事部長を経て95年フォーダージャパンに転じ、管理本部長、社長、会長を歴任。フライシュマン・ヒラード・ジャパンにて、SVPとして経営者育成、企業文化、リーダーシップコミュニケーションなどを担当後、現在経営コンサルタント会社代表、株式会社ライフソフトEVPなど。国内外での講演多数。

中山 こずゑ 客員教授 NAKAYAMA Kozue	担当 科目	観光インバウンドマネジメント
-------------------------------	----------	----------------



【学歴】慶應義塾大学大学院社会学科修士課程修了 INSEAD社会人MBAコース修了。【経歴】日産自動車(株)に入社。企画統括部長を経て、グローバルブランド副本部長。電気自動車リーフのネーミングをまとめ、横浜市市長からの強い要望で横浜市文化観光局長就任。就任前比で観光実人員及び消費額を約2倍とする。2018年より(株)横浜国際平和会議場CEO就任。現職は(株)帝国ホテル社外監査役、(株)いすゞ自動車・(株)TDK・(株)南都銀行の社外取締役他。地方活性化・次世代育成をライフワークとしてコンサルティング等も活動中。【主な著書・論文】地方創生を成功させる5つの法則・会社を辞めなくなった時に読む本 他

迫川 史康 客員教授 SAKOGAWA Fumiyasu	担当 科目	ケーススタディ 組織を動かす 変革型リーダーシップ論
---------------------------------	----------	----------------------------



【学歴】関西学院大学経営戦略研究科(MBA)修了。【経歴】外資系製薬会社アストラゼネカ株式会社の営業(MR)としてキャリアをスタートし、同社人財開発マネージャーを経て現在、HRBC株式会社代表取締役。企業内研修においてリーダーシップ開発、組織開発、組織風土改革などの実績多数。日本を代表する大手企業から中堅・中小企業まで幅広くヒト・組織に関する事例研究を行っている。

土屋 有 客員教授 TSUCHIYA Yuu	担当 科目	Webマーケティング戦略
---------------------------	----------	--------------



【学歴】多摩大学大学院経営情報学研究科 修士課程修了。【経歴】国立大学法人宮崎大学 准教授(マーケティング、アントレプレナーシップ)、土屋有事務所代表。アイレップ取締役、面白法人カヤック事業部長、アラタナ(現 ZOZO)取締役、カヤックLiving(現 カヤック)代表取締役など数社の役員を歴任。2015年より現職。(大学発スタートアップ) Smolt、(ソーシャルビジネス)Community Nurse Company取締役をはじめ社会・地域課題解決型企業の経営に携わる。【主な著書・論文】「新型コロナウイルス感染拡大による宮崎県観光客の心理・行動変容 - Yahoo! JAPAN「DS.INSIGHT」による分析-」土屋有 宮崎大学地域資源創成学部紀要 2021年3月

高田 貴久 客員教授 TAKADA Takahisa	担当 科目	ビジネスリーダーのための実践的課題解決
-------------------------------	----------	---------------------



【学歴・資格】東京大学 理科I 類 中退、京都大学 法学部 卒業、シंगाポール国立大学(NUS)Asia Pacific Executive MBAコース卒業、Gallup認定ストレングスコーチ 【経歴】アーサー・D・リトル(ジャパン)、マブチモーター株式会社 社長付・事業基盤改革推進本部 本部長補佐、ポスTON・コンサルティング・グループを経て、株式会社プレゼナストラテジック・パートナーズ設立。5か国で300社を超える企業に人材育成サービスを提供 【主な著書・論文】著書に25版増刷のベストセラー「ロジカル・プレゼンテーション」(英治出版)、「問題解決」(2013年英治出版)

小林 立明 客員教授 KOBAYASHI Tatsuki	担当 科目	ソーシャル・ファイナンス
---------------------------------	----------	--------------



【学歴】東京大学教養学部卒業、ペンシルヴァニア大学NPO指導者育成修士課程修了。【経歴】国際交流基金、日本財団、ジョンズ・ホプキンス大学客員研究員、学習院大学国際センター准教授等を経て現職。多摩大学社会的投資研究所主任研究員を兼任。専門領域は、戦略的グランド・メイキング、社会的インパクト評価、ソーシャル・ファイナンス、NPOマネジメント等。内閣府成果連動型資金提供事業専門委員、地球環境基金評価専門委員等を務めている。【主な著書・論文】主要著書に、「フィナンソロビーのニューフロンティア」(翻訳)、「英国チャリティ:その変容と日本への示唆」(共著)、「入門ソーシャル・セクター」(共著)等。

佐藤 洋行 客員教授 SATO Hiroyuki	担当 科目	データサイエンス・マーケティング実践
-----------------------------	----------	--------------------



【学歴】九州大学大学院修了(農学博士)。【経歴】2008年ブレインパッドに入社し、多くのクライアント企業でのデータ分析プロジェクトにプロジェクトマネージャーおよびデータサイエンティストとして携わる。Qubitalデータサイエンス取締役、多摩大学准教授などを経て、現在電通クロスブレイン取締役。ダイレクトマーケティング、R&D、テキストマイニングなど幅広い分野でのデータ分析に精通している。【主な著書・論文】著書に「データサイエンティスト養成読本(共著、技術評論社)」、「AI時代の意思決定とデータサイエンス(単著、多摩大学出版会)」がある。

川井 真 客員教授 KAWAI Makoto	担当 科目	高齢社会のまちづくり
---------------------------	----------	------------



【経歴】デルタテックアソシエイツ株式会社 専務執行役員、シダックスグループ(シダックス株式会社)社外取締役、明治大学先端科学ELSI研究所 地方創生部門長、明治大学サービス創新研究所 顧問、明治大学研究・知財戦略機構 客員研究員、千葉工業大学日本文化再生研究センター 上席研究員、対馬市SDGs総合研究所 客員研究員等を兼務。専門は政治哲学・文明論・公共リスクマネジメント論・死生学。現在、全国在宅医療推進協会監事、MINS治験審査委員会理事、ふるさとテレビ顧問、対馬沖洋上風力発電導入検討委員会 委員長、対馬市SDGsアドバイザーボード 委員等も務める。

田中 勇一 客員教授 TANAKA Yuichi	担当 科目	ソーシャルビジネス演習
-----------------------------	----------	-------------



【学歴】京都市理学部数学科卒業。米国カーネギーメロン大学にてMBA取得。【経歴】住友銀行(現三井住友銀行)に入行。留学や起業支援を経て、新銀行東京設立プロジェクトに草創期より参画し、人事部門の責任者として銀行立ち上げに大きく貢献。現在は、リソウル(株)を設立し、転職・副業・起業などのキャリア支援や採用コンサルティングに取り組む。2010年4月に「社会起業大学」を設立。2020年12月には「キャリアアジェンジャサロン」を立ち上げ、新時代における生き方働き方の創造に取り組んでいる【主な著書・論文】主な著書に「やりたいことはよくわかりませんが、私の適職教えて下さい!」(徳間書店)がある。

森 華子 客員教授 MORI Hanako	担当 科目	知識創造理論に基づくアートと戦略的直観
--------------------------	----------	---------------------



【学歴】慶應義塾大学総合政策学部卒業。国際コーチング連盟認定プロフェッショナルコーチ。米国NLP&コーチング研究所認定NLPプロフェッショナルコーチ。【経歴】米国系コンサルティングファームにて、組織変革やリーダーシップ開発に係るコンサルティングに10年間従事。2015年から個人向けのコーチングにも取り組み、2020年からは意識・行動変容を目的としたアートを取り入れたプログラム開発、研修講師を担当。現在は、EYストラテジー・アンド・コンサルティングにおいて、アートの効用を取り入れながら直観と主観を覚醒するサービスの責任者として、多様なクライアントの変革に携わる。

菅原 貴与志 客員教授 SUGAWARA Takayoshi	担当 科目	コーポレートガバナンスの理論と実務
-----------------------------------	----------	-------------------



【学歴】慶應義塾大学法学部法律学科・経済学部卒業、米国University of Wisconsin Law School(法科大学院)修了。【経歴】弁護士、慶應義塾大学大学院法務研究科教授、東京弁護士会社会法務部 部長、日本商工会議所 経済法規専門委員会 学識委員。ANAホールディングス 法務部長、同社コンプライアンス・リスクマネジメント担当役員、法務省法制審議会委員等を歴任。【主な著書・論文】単著に『企業法務入門 20 講』、『会社法入門 20 講』(いずれも勁草書房)、『新しい会社法の知識』(商事法務)、『詳解個人情報保護法と企業法務』(民事法研究会)、論文に「社外取締役の研究」(慶應法学)等。

中分 毅 客員教授 NAKAWAKE Takeshi	担当 科目	プロジェクト・マネジメントの基本と応用
-------------------------------	----------	---------------------



【学歴】京都市工学部卒、筑波大学大学院修了。【経歴】世界でTOP5に入る日建設計にて、国内、中東、ロシア、インド、東アジアでの都市開発や建築プロジェクトの企画、プロジェクト・マネジメント、マーケティングに従事。2015年～ 2018年同社代表取締役副社長。退任後は中国華東建築設計研究院特別研究員、こべてんカンパニー・エキスパート等を兼務。駅まち一体開発の海外展開や複数主体が参加する共創事業のプロジェクト・デザインの方法論整備に注力している。【主な著書・論文】駅まち一体開発～公共交通指向型まちづくりの次なる展開(編者、新建築2013)、土地は誰のものか(白揚社、分担執筆、2019)

橋場 剛 客員教授 HASHIBA Go	担当 科目	実践ビジネスコーチング
-------------------------	----------	-------------



【学歴】中央大学法学部国際企業関係法学科卒【経歴】大学卒業後、アクセンチュア株式会社入社。マネージャーを経て、プロのビジネスコーチとして独立。2005年、ビジネスコーチ株式会社の創業に参画し、2017年より取締役副社長。2022年10月、同社を東京証券取引所グロース市場への上場へ導く。経営者・経営幹部に対するエグゼクティブコーチング及び管理職への1対Nコーチング、コンサルティングを実施し、多くの企業経営者・経営幹部・管理職から高い評価を受ける。「あなたに、一人の、ビジネスコーチ」の実現に向け、挑戦し続けるビジネスパーソンを応援し、クライアント(人と組織)の行動変容とその習慣化・定着化に力を注いでいる。【主な著書・論文】『ビジネスコーチング大全』(日経BP日本経済新聞出版)など。

山本 佳孝 客員教授 YAMAMOTO Yoshitaka	担当 科目	実践ビジネスコーチング
----------------------------------	----------	-------------



【学歴】1983年 法政大学法学部卒【経歴】大手広告代理店に12年間勤務後、1995年プルデンシャル生命保険に転身。2002年には支社長、翌2003年営業推進本部長に就任。2006年メキシコ・プルデンシャル創業の初代営業本部長として赴任。帰国後は執行役員常務営業本部長に就任。2011年4月新会社PGF生命保険設立に伴い初代営業本部長として着任。その後、執行役員専務営業統括本部長、取締役兼執行役員専務営業戦略本部長、人事総務統括ビジネスオリエンティ担当を歴任。2019年同社を定年退職、ビジネスコーチ株式会社に入社し現職。BCS認定 プロフェッショナル エグゼクティブ ビジネスコーチ、国家資格 キャリアコンサルタント。

宮城 治男 客員教授 MIYAGI Haruo	担当 科目	実践を通して学ぶソーシャルビジネス
----------------------------	----------	-------------------



【経歴】早稲田大学在学中の93年、ETICを創業。若い世代が自ら社会に働きかけ、仕事を生み出していく起業家型リーダーの育成に取り組む。2001年より「社会起業家」の育成にフォーカスし、ETIC、ソーシャルベンチャーセンターを設立。日本初の社会起業ビジネスプランコンテストSTYLE、社会起業塾インシアティブ等を手がける。これまで1600名以上の起業家の創業を支援。04年からは、地域における人材育成支援のチャレンジ・コミュニティ・プロジェクトを開始。現在全国60地域に広がる。11年から震災復興支援に注力し、「志願プログラム」では東北の100を越えるプロジェクトリーダーのもとに215名のスタッフを送り込む。2011年、世界経済フォーラム ヤンググローバル・リーダーズに選出。文部科学省参与、中央教育審議会臨時委員、内閣官房まち・ひと・しごと創生会議構成員等を歴任。

中岡 英隆 客員教授 NAKAOKA Hidetaka	担当 科目	M&A戦略と実践企業ファイナンス
--------------------------------	----------	------------------



【学歴】東京大学理学部物理学科卒業、筑波大学博士(経営学)。【経歴】首都大学東京戦略研究センター教授(兼)大学院社会科学部研究科教授を経て、多摩大学大学院客員教授。伊藤忠商事にて、エネルギー開発部長、伊藤忠石油開発取締役、Ras Laffan LNG社取締役、日本サハラリブライン調査企画取締役、原燃輸送取締役、カタール・ジョイント・ファイナンス代表取締役社長などを歴任。元伊藤忠石油開発CIO・CCO。【主な著書・論文】『リアルオプションと投資戦略』(共著)朝倉書店2008年 / 「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャーナル・ジャーナル:パリュエーション』朝倉書店2011年、他

徐 向東 客員教授 XU Xiangdong	担当 科目	日本企業の中国ビジネス
---------------------------	----------	-------------



【学歴】北京外国語大学在学中に修士号取得、立教大学在学中に博士号取得。【経歴】CM-RC.com(株)中国市場戦略研究所代表。北京外国語大学専任講師を経て文部省奨学金で来日し博士号取得。中央大学、専修大学・講師、日経リサーチ首席研究員、上海事務所総監、キャストコンサルティング(株)代表取締役、ジェトロのコーディネーター、日本政府観光局国際観光振興機構中国市場アドバイザーなどを歴任。【主な著書・論文】主な著書は『中国人にネットで売る』(東洋経済新報社2011)、『中国人に売る時代!巨大市場開拓の成功法則』(日本経済新聞出版社2009)等。

瀧川 浩人 特別講師 TAKIKAWA Hiroto	担当 科目	ビジネスコミュニケーション日本地理・歴史総合Ⅱ
-------------------------------	----------	-------------------------



【学歴】國學院大学文学部卒業。専門は、神道史学。【経歴】代々木ゼミナール入職。進路アドバイザーとして、首都圏高等学校で入試情報分析をもとに講演活動を展開。1994年より、代々木ゼミナール社会科講師を兼務。多数の受験生を難関校合格へ導く一助を担う傍ら、日本レクリエーション協会公認インストラクターとして、学校教育のレクリエーション指導、旅行会社の新人教育研修を担当。2004年に多摩大学入職。グローバルスタディーズ学部(湘南キャンパス)設置準備に関わり、新設学部立ち上げに従事。現職は、多摩大学大学院事務課長兼経営情報学研究科特別講師。

## 教員紹介

宋 岩群 客員教授 SONG Yanqun	担当 科目	ビジネスジャパニーズI・II 他
--------------------------	----------	------------------



【学歴】東京外国語大学地域文化研究科修了(日本語学修士取得)、多摩大学大学院経営情報学研究科修了(MBA)。【経歴】東京外国語大学修士課程修了後、日本の民間企業にて海外営業、技術提携サポート業務を担当。その後、翻訳・通訳のフリーランスへの転身を経て、2018年より現職である共立製薬株式会社国際事業推進部にて海外事業戦略立案等に携わる。2022年多摩大学大学院で留学生向けのビジネスジャパニーズを担当。ビジネス、司法関連など翻訳及び通訳多数経験。

劉 麗娜 客員教授 LIU Lina	担当 科目	論文スタートアップI
-----------------------	----------	------------



【経歴】中国の吉林省に生まれ、大学を卒業後に大手建材メーカーLIXILに就職。2013年来日。2014年4月に多摩大学大学院に入学大学院時代から医療コーディネーター/通訳として活動、お客様(患者様)の笑顔を見て医療ツーリズムがとてもやりがいのある仕事だと感じて、修了と同時に医遊株式会社を設立。

齋藤 春光 客員教授 SAITO Harumitsu	担当 科目	論文実践I・II
-------------------------------	----------	----------



【学歴】武蔵大学経済学部経済学科卒業(1980年3月)、多摩大学大学院経営情報学研究科修士課程卒業(2015年9月)【経歴】バイオニア株式会社 元取締役兼常務執行役員 経営戦略部 部長。長年にわたり、カーエレクトロニクス アフターマーケット事業に携わり、営業、マーケティング、商品企画、事業統括に従事。その後上海市にある合弁会社の総経理として経営を担う。帰国後、経営管理、経営戦略を担当しマネージメントに携わる。

水木 さとみ 客員教授 MIZUKI Satomi	担当 科目	ストレスマネジメントと精神回復力
------------------------------	----------	------------------



【学歴】各種心理療法を修得し、横浜市立大学医学部口腔外科講座、同精神医学講座、東京医科歯科大学頭頸部心身医学講座にて心理療法を実践。医学博士の学位を取得。【経歴】東京医科歯科大学頭頸部心身医学講座臨床講師を経て、心理学・行動科学・心身医学に基づく実践的な研修・講演を数多く全国的に普及。【主な著書・論文】原著:慢性疼痛を有する顎関節症患者へのストレスマネジメント(横浜医学)/総説:日本頭頸面インプラント学会誌/歯科医療コミュニケーション/心理セラピストが贈る魔法のコミュニケーション/心理カウンセラーと弁護士が説く!患者さんとのトラブル&ハプニング(共にクインテッセンス出版)他、多数。

## 【ルール形成戦略】フィールド 日本で唯一、多摩大学大学院で学べる ルール形成戦略の教授陣

奥山 真司 客員教授 OKUYAMA Masashi	担当 科目	戦略論と地政学
-------------------------------	----------	---------



【学歴】英レディング大学大学院博士課程修了【経歴】国際地政学研究所 所長 研究員。青山学院大学や拓殖大学で非常勤講師を務める。【主な著書・論文】単著:『地政学:アメリカの世界戦略地図』『Classical Geopolitical Theory and Japan's Strategic History』。監修:『サクッとわかるビジネス教養、地政学』。翻訳:『大國政治の悲劇』『戦争の未来』『インド太平洋戦略の地政学』など多数。

前田 英志 客員教授 MAEDA Hideshi	担当 科目	DX変革:データサイエンスによる 企業変革
-----------------------------	----------	--------------------------



【学歴】東京大学大学院修了(機械工学)、一橋大学国際企業戦略科修了(MBA)。【経歴】専門は技術戦略とビジネスアナリティクス。過去、日本IBM 戦略コンサルティンググループにて、データ戦略をリード。データサイエンティスト育成道場プログラムを開発し、小売業、製造業に展開。この取組みは、経済産業省のものづくり白書(2017)に掲載されている。IBMの経営企画にも所属し、IBMの変革プロジェクトに参画。著書に「IBMを強くしたアナリティクス(共著、日経BP社)」がある。現在は「地球上のすべての個人が、お金から自由になり、自分が本当にやりたいことをやれるようになる」ことをミッションとした会社を立ち上げ、世の中のすべての人の経済的自立の実現に魂を尽くしている。

吉松 敏也 客員教授 YOSHIMATSU Toshiya	担当 科目	プレミアム価値創造のブランド戦略
----------------------------------	----------	------------------



【学歴】慶應義塾大学商学部卒。【経歴】日産自動車商品企画室を経て、オーディジャパンに設立から参画。マーケティング、戦略企画室長として、オーディブランドの日本での躍進に貢献。その後、広告代理店を経て、現在は様々な業種を対象に、マーケティング戦略やブランドづくりのコンサルティングをおこなっている。日本マーケティング学会員。

前川 慶一 客員教授 MAEKAWA Keiichi	担当 科目	経営戦略概論
-------------------------------	----------	--------



【学歴】東京大学工学部卒。【経歴】日産自動車にて、パワートレイン開発・企画、人事、経営企画、商品戦略、プログラムマネジメント等を担当。2013年から2019年までマーレグループ(ドイツ資本自動車部品サプライヤ)日本事業役員、現在は自動車業界コンサルタントを務める。

三田 真美 客員教授 MITA Mami	担当 科目	実践ポジティブ心理学
-------------------------	----------	------------



【学歴】慶應義塾大学文学部卒。同大学院政策メディア研究科修士課程修了。【経歴】外資系コンサルティング会社を経て、日経BP社などで、経営誌記者、書籍編集に携わり、起業やイノベーションから教育、女性問題まで、幅広いジャンルの書籍を企画・編集する。近年は、ポジティブ心理学や行動科学の書籍を数多く手がけ、ビジネスパーソン向けに独自のジャーナリング(筆記)ワークショップも行う。認定ポジティブ心理学プラクティショナー。

國分 俊史 教授 KOKUBUN Toshifumi	担当 科目	社会課題と経済安全保障を巡る ルール形成戦略 他
-------------------------------	----------	-----------------------------



【学歴】早稲田大学大学院公共経営研究科修了【経歴】IT企業の経営企画、シンクタンク、米系戦略ファームA.T. カーニープリンシパル、米系系会計ファーム ヴァイスプレジデントパートナーを経て欧州系グローバルコンサルティングファームに参画【主な著書・論文】単著:「経営戦略と経済安リスク」「エコノミック・スタイトクラフト 経済安全保障の戦い」、監修:「カーボンZERO経営」、編著:「世界市場で勝つルールメイキング戦略 技術で勝る日本企業がなぜ負けるのか」、共著:「技術覇権 米中激突の深層」日本経済新聞出版社、A.T. カーニー最強の経営シリーズ「最強の業務改革」、「最強のコスト削減」

福田 峰之 客員教授 FUKUDA Mineyuki	担当 科目	議院内閣制度における 公的ルール形成プロセス論
-------------------------------	----------	----------------------------



【学歴】立教大学社会学部卒業【経歴】元衆議院議員 元内閣府副大臣(IT・科学技術・知財等担当)前内閣府大臣補佐官(マイナンバー担当)。自民党IT戦略特命委員会事務局長としてサイバーセキュリティ基本法や官民データ活用推進基本法の制定に尽力。自民党水素社会推進委員会事務局長として水素政策をリードし、世界で最も精通している政治家として様々な国際会議に招聘。アジアで日本が果たすべき役割とインフラ輸出戦略を視点とする「米国内バランス下におけるアジア太平洋地域での日本の新たな役割に関する研究会」を設立。また、経済や政治におけるルール形成戦略の必要性を掲げ「ルール形成戦略議員連盟」を立ち上げる。

平林 知高 客員教授 HIRABAYASHI Tomotaka	担当 科目	ツーリズムを通じた経済開発・ 人間開発論
------------------------------------	----------	-------------------------



【経歴】政府系金融機関、外資系コンサルティングファームを経て現職(EYストラテジー・アンド・コンサルティング、パートナー)。データドリブン戦略の立案を起点とし、さまざまな社会課題の解決に向けた取り組みを実施。近年は、観光関連の政策立案を支援するとともに、全国各地の自治体や観光関連事業者などとの連携によるデータ活用プラットフォームサービスを自ら主導して展開する。エコシステム、プラットフォームビジネスにおける第一人者として活躍。国土交通省 観光庁 観光DX推進のあり方に関する検討会 委員、JNTO 認定外国人観光案内所の機能強化方策検討会 委員【主な著書・論文】「ツーリズムの未来2022-2031」(日経BP)

伊原 克将 客員教授 IHARA Katsumasa	担当 科目	ルール形成戦略のBX (実践行動経済学)
-------------------------------	----------	-------------------------



【学歴】早稲田大学大学院創造理工学研究科修了、早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科 博士課程(工学)修了【経歴】凸版印刷、デロイト トーマツ コンサルティングを経て、現職(EYストラテジー・アンド・コンサルティング)。国内初となる「行動科学×戦略コンサルティング」を特色とするチームを立ち上げ、行動科学トランスフォーメーション(BX)を切り口とした官民の戦略・構想プロジェクトを多数手掛ける。その他に、気候変動分野における行動経済学・ナッジ政策の提言等の国の政策手法の検証や制度設計に関わる多数のプロジェクトに従事。【主な著書・論文】共著「カーボンZERO気候変動経営」

伊藤 言 客員教授 ITO Gen	担当 科目	ルール形成戦略のBX (実践行動経済学)
----------------------	----------	-------------------------



【学歴】東京大学大学院人文社会系研究科(心理学)修了【経歴】日本学術振興会特別研究員、心理学系シンクタンクを経て、現職(EYストラテジー・アンド・コンサルティング)。一橋大学大学院ビジネススクール講師も兼任。社会心理学分野で複数の学会賞を受賞。その後、科学的知見を活用し官民の行動変容施策をデザインする、国内初となる「行動科学×戦略コンサルティング」を特色とするチームをEYに立ち上げ、ナッジに限定されない行動科学の知見全体を活用して社会課題解決を促進するためのフレームワーク(理論・制度)の構築を目指している。【主な著書・論文】共著「カーボンZERO気候変動経営」

岡田 宏記 客員教授 OKADA Hiroki	担当 科目	ルール形成のためのメディア戦略
----------------------------	----------	-----------------



【学歴】早稲田大学政治経済学部卒業。【経歴】フジテレビジョン 報道局プロデューサー、日産自動車・広報室を経て、フジテレビジョン入社。自民党記者クラブ等を経て、数多くの報道番組・ドキュメンタリー番組を制作。【主な作品】フジテレビ初のドキュメンタリー映画「HARUKO」は、平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞。特別番組「名門に生まれる」ということ〜市川海老蔵、宿命と苦悩の物語〜は国際エミー賞芸術番組部門でノミネート、ニューヨーク・フェスティバル芸術部門金賞受賞。DVD作品「アシュリーと生きて〜短い命を刻む少女・7年間の記録〜」は厚生労働省・特別推薦児童福祉文化財に選定。

## イノベーターシップの修得に欠かせないリベラルアーツ講座、 新時代の実践型リーダーシップ講座が充実

### EX. 実践知リーダーのための教養と対話型読書演習

### 人類の知を俯瞰して、対話を通じ 「いかに生きるべきか」を探求する

本講座は、世界の古典・名著200冊を体系的にまとめた拙著『読書大全』を教材として、ビジネスパーソンとして、或いは一人の人間として、「心の体幹」を鍛えるための教養講座です。ますます複雑化する現代社会で、人生やビジネスでの成功を目指してマネジメントスキルの研鑽に努めている皆さんは、そもそも「何のために学ぶのか?」「自分はどこに向かっているのか?」という根源的な疑問に突き当たり、立ち止まることもあるでしょう。ビジネスパーソンとして目指すべき価値は、経済的なもの以外に何があるのか…こうした根源的かつ困難な問題に真剣に向き合おうという皆さんと私が共に学ぶ、対話型読書講座です。

### EX. 実践ビジネスコーチング

### 「対話」を通じて自律型人材を育成する コーチングスキルを身につける

サステナブルな「人的資本」を生み出すカギは、自ら考え、行動し、よりよい成果を生み出すことができる自律型人材をいかに育成し、主体的にチャレンジし続ける組織をつくるかにあります。「1on1ミーティング」はその有力な手法で、対話を通じて行動変容およびその習慣化・定着化を支援するビジネスコーチングの知識やスキルが有効です。コーチングによる対話型リーダーシップによって、人材が自律的に動く組織やチームを作るための実践的スキルを学びます。



堀内 勉  
多摩大学大学院教授  
多摩大学社会的投資研究所所長  
HORIUCHI Tsutomu

【学歴】東京大学法学部卒、ハーバード大学法律大学院修士。【経歴】日本興業銀行、ゴールドマンサックス、森ビル専務取締役CFOなどを歴任。現在は著作家兼書評家として活動しながら、複数企業取締役や顧問を務めると同時に、資本主義とソーシャルフィナンズの研究に従事。

『読書大全 世界のビジネスリーダーが  
読んでいる経済・哲学・歴史・科学200冊』  
日経BP

### ビジネスコーチ株式会社



橋場 剛  
ビジネスコーチ株式会社  
取締役副社長  
HASHIBA Gou

【学歴】中央大学法学部卒。【経歴】アクセンチュアを経て、プロのビジネスコーチとして独立。2005年、ビジネスコーチ株式会社の創業に参画。【主な著書・論文】コーチングセッション・研修実績は300社超、延べ10万人・累計1万時間超。主な著書に『優れたリーダーになる たった1つの行動』(中経出版)、『ダイエットに成功する人が会社を活性化できるワケ』(扶桑社新書)、『ビジネスコーチング大全』(日経BP 日本経済新聞出版)がある。

## イノベーションの世界的第一人者から学ぶ

幅広い世界が認めるイノベーターから、実用的なビジネススキルを学び、未来を創造するための理論と思想の体得を目指します。

多摩大学大学院グローバルフェロー

アレックス・オスターワルダー氏

アレックス・オスターワルダー博士は、世界的ベストセラー『ビジネスモデル・ジェネレーション』の著者であり、起業家、講演者としても活躍している。戦略マネジメントとイノベーションのためのツールやコンテンツに特化したソフトウェア会社「Strategyzer」を共同設立。オスターワルダー博士が開発したビジネスモデル構築ツール「ビジネスモデル・キャンパス」は、コカ・コーラ、GE、P&G、マスターカード、エリクソン、レゴ、3Mといった企業が採用している。



多摩大学大学院グローバルフェロー

イヴ・ピニユール氏

1984年よりローザンヌ大学教授。ジョージア州立大学、ブリティッシュコロンビア大学、シンガポール国立大学、モントリオール商科大学で客員教授を務める。ベルギー・ナミュール大学で博士号を取得。学術誌『Systemes d'Information & Management』の前編集長。世界的ベストセラー『ビジネスモデル・ジェネレーション』の共著者。ビジョナリー、ゲームチェンジャー、チャレンジャーたちのための指南書であるこの本は、30ヶ国語に翻訳されている。



多摩大学大学院グローバルフェロー

クリスター・ヴァインダル=リッツシリウス氏  
—カオスパイロット (KAOS PILOT) 校長兼CEO

デイビッド・ストークホルム氏  
—プログラムディレクター

カオスパイロット (KAOS PILOT) はリーダーシップとアントレプレナーシップのためのデンマークのハイブリッド・デザインスクール。多くのメディアにも採り上げられており、多摩大学大学院ははじめ国外でもプロフェッショナルプログラムを提供している。根底には、表層的な手法やプロセスではない、混沌とした時代を創造的に生きるためのデザイン思考メソッドがあり、体験的プログラムを特徴としている。



多摩大学大学院グローバルフェロー

マックス・マキューン氏

コンサルタント。英国王立芸術協会フェロー。ウォリック・ビジネス・スクールでMBAとPh.D.を取得。「カスタマー・サービス・ホール・オブ・フェーム (顧客サービスの殿堂)」に選出された他、パーソナル・トゥデイ誌の「ヒューマン・リソースのスター」としてノミネートされた。大小様々な企業での経験をもとに、戦略、イノベーション、リーダーシップ、チームビルディングなどについて、コンサルティング、講演、執筆活動を行う傍ら、イギリス国内外のラジオやテレビ、新聞などでも活躍している。



多摩大学大学院グローバルフェロー

マイケル・スペンサー氏

エドゥケーター、ファシリテーター、ヴァイオリン奏者 上野学園大学音楽学部音楽学科 客員教授 音楽文化研究センター客員研究員 元ロンドン交響楽団ヴァイオリン奏者、元英国ロイヤル・オペラ・ハウス教育部長。現在、Sound Strategies 経営責任者。スペインで唯一自主運営をしているバレス交響楽団(バルセロナ)にて、教育プログラムと経営方針の特別顧問を務める。世界各地で芸術教育プログラムを開発・実践し、さまざまな芸術団体や企業から高い評価を受ける。日本でも社団法人日本オーケストラ連盟・文化庁後援により、24各地で教育プログラムを実施。2006年のプロオーケストラと上皇后陛下ご臨席のもと、紀尾井ホールにてワークショップ型コンサート開催。2008年には、教育ディレクターを務めた『ピーターと狼』がアカデミー賞(短編アニメ部門)を受賞した。近年では、英国免疫学会の依頼を受け、科学者と芸術家、地域コミュニティとの共生を目的とした芸術プログラムを英国各地にて制作・実践しており、NHK-BS『旅のチカラ』でも活動内容が紹介された。Japan Festival in London 2012 大会会長も務めた。



多摩大学大学院グローバルフェロー

ジェイ・オグルビー氏

グローバル・ビジネス・ネットワーク (GBN) の共同設立者。GBNは戦略立案のための最も一般的なツールとして世界で活用されているシナリオ・プランニングの方法論と実践を普及させるための知の中心となった。GBN以前は、イェール大学で哲学者として教鞭をとったのち、SRIインターナショナルのValues and Lifestyles Programのリサーチ・ディレクターを務めている。オグルビー博士の現在の関心事は、北極海の氷冠の縮小である。1980年から縮小を続けており、2030-35年には夏に氷のない状態になるという。これによりアルベド効果(太陽の光が宇宙に反射される効果)が低下し、海水温度が上昇し、シベリアのツンドラからメタン(CH4)が放出される。これらは不可逆的な現象であり、私たちの終焉につながる可能性がある。氏には『Creating Better Futures』、『Facing the Fold』、『Essays on Scenario Planning』、『China's Futures』など多数の論文・書籍がある。



多摩大学大学院グローバルフェロー

エイミー・ウェブ氏

ニューヨーク大学経営大学院 (NYU Stern School of Business) 教授、未来学者、Future Today Institute 創業者。データとテクノロジー・ドリブンの未来予測手法を開発、世界で最も尊敬されている企業ランキングのCEOのアドバイザーを多数務める。BBCが発表する世界に影響を与えた「100人の女性」(2020年)に選出。「シグナル」「BIG NINE 巨大ハイテク企業とAIが支配する人類の未来」など著作多数。



多摩大学大学院グローバルフェロー

ディスパナダ・ディスクル(デューク)氏

タイ、ラオス、ミャンマーの国境地帯は以前は世界の麻薬の大半を生産する黄金の三角地帯と言われた無法地帯であり、ケシの栽培で森林は荒れ果て少数山岳民族は搾取されていた。その荒涼な地域を有数の観光地に変え、住民が自立できる経済と社会に変革したNGOを率いるリーダーが、社会イノベーションの実践知を伝授します。



## 第一線管理者・経営者層を対象とした特別プログラム

VUCAなグローバルビジネス環境に向かって、『理想とする未来を構築し、実践する力』を参加者間のディープなディスカッションを交え、身につけます。

### 履修証明プログラム 『ライフシフト大学プログラム』

～80歳まで現役で活躍するために～

人生100年時代を迎えた今、定年退職後の40年を、あなたはどのように生きていきますか? 「60歳で定年退職」は、もはや人生のゴールではありません。これからは80歳まで働かなければ、100歳まで生きる資金が確保できないといわれています。

一方、企業では、高齢化・人口減少が進む中、定年延長や高齢者雇用を行う、定年前の副業・兼業を認める、社内起業家を募るといった動きが出てきています。

このような環境の変化に、あなたはどのように対処しますか? 多摩大学大学院では、ライフシフト大学と連携し、人生100年・仕事人生80年を見据え、中高年の学び直しの場、人生を豊かにするための視野拡大の他流試合の場を提供します。



### 履修証明制度とは

履修証明制度とは、学校教育法第105条及び学校教育法施行規則第164条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学修プログラムを開発し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するものです。

## 品川塾 ～イノベーション・エコシステムの創造拠点～



品川塾

PRODUCED BY  
多摩大学大学院  
http://tgs.tama.ac.jp/  
shinagawa-juku/

「品川塾」は、品川にキャンパスを構える多摩大学大学院が触媒となり、品川エリアに集まるイノベーション志向の企業や個人のネットワークを支援する試みです。国内外の著名スピーカーによる講演やワークショップなどを通じ、都市に根差したイノベーション・エコシステムと新たなコネクションを創造していきます。

## 入学についてのQ&A



受験条件は、大学卒業でないと受験できませんか?  
社会人経験3年以上でないと受験できませんか?

A. 出願資格により、「3年以上の実務経験を有している職業人を優先する」、「本大学院において大学を卒業したと同等以上の学力があると認められた者」と明記しております。3年以上の実務経験を有していると認められる方、学部卒業と同等の資質があると認められる方には、事前審査により門戸を開いており、受験することが可能です。



学費はいくらですか。  
奨学金制度はありますか?

A. 入学金30万円、授業料は各学期50万円の分割納入です。半年ごとの納入で、4期に分けて2年間で納めていただきます。本学独自の奨学金制度として特待生奨学金制度があり、選定されますと授業料が2分の1になります。また、厚生労働大臣より「専門実践教育訓練指定講座」の認定を受けております。一定の要件を満たす場合は、最大112万円がハローワークより支給されます。



仕事と勉強を両立できるか心配です。また、土・日曜日だけの受講で修了できますか?

A. 本学に在籍する院生の方は、平日に2日程度、土曜日、日曜日のどちらかの授業に参加しています。また、土曜日、日曜日だけの受講で、修了に必要な30単位を修得できるよう、カリキュラムを組んでいます。そしてキャンパスも品川駅港南口より徒歩1分という立地にあり、多忙なビジネスパーソンが、仕事と学業を両立しやすい環境を整えています。



学位論文が提出できるか心配です。

A. 本学では、学位論文が学びの集大成と位置づけています。1 semester終了時に論文基礎講座で、論文の基礎(手法、情報収集の仕方)を学びます。2 semesterより主指導教員による論文演習がはじまります。その他、定期的な主指導教員、副指導教員による論文指導などで、院生の皆さんの学位論文をサポートしています。



# 言葉だけの女性登用ではなく、真の意味での女性のキャリアマネジメントを！

## 求められるイノベーターシップ修得のために

AIの導入、デジタル化、創薬系バイオベンチャーとの積極的な提携など、いま製薬企業を取り巻く環境はドラスティックに、そしてグローバルに変化しています。当然、現場でビジネスを牽引していく管理職にも、これまでも異なるスキルが求められるようになりました。それはプレイヤーとして培った経験に基づく

リーダーシップではなく、環境変化を敏感に察知し、変革を推進していくイノベーターシップ。その重要性に気づいた時期に営業所長を拝命し、経営全般に関する基盤となる知識修得と実践力が必要と考えたことが、私が大学院で学ぶと思った理由です。多摩大学大学院は超実学志向MBAという点に魅力を感じましたが、それだけでなく、共に学ぶ仲間の存在も重要でした。同期だけでなく先輩や後輩とも接点があり、志



田辺三菱製薬プロビジョン株式会社 グループ長

## 矢山 幸子さん (2021年3月修了)

**Profile** 2002年に田辺三菱製薬に入社し、MR、営業スキル・製品知識の研究担当、MRコーチを経験し、営業における課題を幅広い視点で見えてきた。特に女性MRのキャリアにおけるマネジメント意識について課題と捉え、自身も女性管理職登用が加速化した2018年に初の女性営業所長となり、課題解決のために多摩大学大学院へ入学。現在は子会社へ出向し、学術情報のマネジメント業務に従事。

が高い仲間と出会える。そんな彼らとの交流からも、刺激や豊富な「知」を得られると思ったのです。

実際に講義を受けてみると、講師陣は実務経験豊かな専門家ばかり。カリキュラム数も豊富で、講義は常に少人数で行われます。講師と意見を交わす機会も多いため、一回の講義で得られることは多岐にわたります。ブランディングやマーケティングに携わった経験から実践的な目線で講義をしてくれる佐野扶美枝客員教授の「商品ブランドマネジメント」や、経営に資する人事の観点からMBAを軸にしたグローバル組織創出のノウハウを学べる徳岡晃二郎教授の「ヒューマンリソース概論」など、どの講義も新たな知識と視座を与えてくれるものばかりでした。

## 女性自らがキャリアを選べるスキームの構築を

大学院を修了した現在、これまでよりも情報収集に敏感になり、その量だけでなく質についてもこだわりを持つようになったと感じています。またエビデンスベースの意識が高まり、より説得力のある発言ができるようになりました。これは大学院での学びが単なる知識修得ではなく、実践知であったからこそ。学んだ知識をすぐに活用することでその経験が自分のものとなり、さらに深く学ぼうという意識を保っていられるのだと思います。

そうした自分自身の体験や、VUCAの時代をさらに加速させた新型コロナウイルス感染症の拡大から、私は「知の再武装」の重要性を再認識しました。OECDによる調査でも、学び直しと生産性には、一定の相関関係があるという結果が出ています。けれども、残念ながら

日本では業務を通して実務経験を積むことに主眼が置かれており、この分野で他国の後塵を拝しているといわざるを得ません。製薬企業も創業に留まらずイノベーションが求められています。そのためにはレジリエンスが高く、外部環境の変化を敏感に察知して「考動」できる人材の育成が喫緊の課題となつています。新たな情報を積極的にインプットする環境と、業種・職種を問わず優秀な人脈を獲得するため、学び直しの重要性を痛感する毎日です。

実践知論文では「内資系製薬企業営業部門での女性のキャリアにおける『マネジメント』の動機づけ」をテーマに研究を行いました。この論文を人事部への提言とし、自社だけでなくあらゆる製薬業界の関係者と関わる中で、真の意味で女性が働きやすく選択肢の豊富な社会の確立をめざしたいと思つていきます。そのために、営業部門の女性管理職代表という意識で視野を広げた活動をしていくつもりです。

製薬企業として、また営業職として、パフォーマンスを上げるためには多様性が欠かせません。国連が提唱するSDGsの中でも、「女性と女兒のエンパワーメントを図る」ことが重要項目に挙げられています。ただ大切なのは、女性管理職比率や制度だけでなく、女性活躍推進を謳うのではなく、女性が自ら管理職の道を選択できるようなスキームの構築。それが優秀な人材の確保や多様な人材を受け入れる土壌を作り、企業の風土を変え、ひいては企業存続の原動力になります。弊社が女性活躍推進を牽引し社会から評価される企業となるよう、私も業務を通じてその一翼を担いたいと思つています。

# 超実学志向MBAで磨いた、社会における自身の存在価値

## 多様な背景の仲間たちと実践知に取り組んだ日々

『構想力の方法論』。紺野登教授と野中郁次郎教授が著したこの本との出会いこそ、私が多摩大学大学院で学ぶうと思つたきっかけです。ITシステム構築を生業とする会社の開発部門で、プロジェクトマネジャーとして業務を遂行。当時の私は、価値を創出する新たなビジネスを構想するために、新たな手法での知の

吸収を必要としていました。そんな想いを抱えた時期にこの本と出会い、多摩大学大学院のことを知ったのです。イノベーション思考・人事・リベラルアーツの醸成にも力を入れており、データ分析に関する講義も充実。MBAとしての価値のみならず講義は非常に実践的で、ビジネスを構想していくための学びに最適な大学院だと感じた私は、多摩大学大学院の扉を叩きました。

## 学んだからこそ分かる「知の再武装」の重要性

多摩大学大学院では「知の再武装」を標榜していますが、学びの重要性については個々の資質や状況によっても多寡があると思います。ただ、私の場合は絶対に必要であったと、大学院を修了した今、強く感じています。講義を基盤とする学びは、知識・見識・視座の獲得のみならず、多様なバックグラウンドを持つ他者との交流があります。そこでの意見交換を通して視野が広がり、相互主観

向上に資するもの」という理念が通底されておき、価値のあるものでした。入学のきっかけとなった紺野教授の講義は思考の鍛錬に最適でしたし、徳岡教授の人事に関する講義では、未知の分野であった人事の重要性に気づくことができ、それがITエンジニアの自己成長支援という、自身の修士論文にもつながったと思つています。両教授の講義以外にも、第一線で活躍する講師陣による幅広い分野のカリキュラムが開講している点が、多摩大学大学院の大きな特徴です。特にデータドリブン経営イールドの今泉教授、久保田教授、中野客員教授の講義は、量的・質的研究の考え方を身につけることができ、ものの見方のレベルが上がったと感じています。こうした「実践知の豊富な講師陣と、リアルタイムで進行している社会の課題について論じ合い、さまざまなバックボーンを持つ仲間と思考錬磨した日々は、思い返しても充実した毎日でした。また私の勤務地からも非常に近く、仕事帰りに通いやすいロケーションであったことも、働き始めてからの学び直しをやり遂げることが出来た大きな要素だったと思つています。

的にもものごとを考察する力も向上したと感じています。講義を通して自然と行われたこうしたトレーニングは、書籍を読んだりネットを検索したりするだけでは決して味わえない経験であり、私にとつて何物にも代えがたい財産です。実際、大学院修了後も院生時代に培ったコミュニティは役立っており、キャリアを形成していくための大きな幹を作ることでできたと考えています。

大学院での知の再武装と並行し、自身のキャリアも変化。現在はITシステム開発でのプロジェクトマネジャー職から、人事部門でスタッフ系業務に従事するポジションへと異動になりました。徳岡教授の下でも人事についての知見を深めましたが、その事例と課題が目の前に提示されている。人事だけでなく育成や総務・労務など、幅広く対応することでこれらの課題に取り組んでいくことが、直近の目標です。前述の通り私の修士論文は、組織における個の自己成長に対するマネジャーの支援方法と視座を考察したものの、執筆にあたり深く掘り下げた内容は業務にも活かされており、組織活性化や価値向上に資するような施策の構想・実行に取り組み毎日です。

## 原田 桂樹さん (2021年3月修了)

**Profile** 入社後、公共システム及び、金融機関向けシステムにおけるインフラ構築業務に従事。その後様々なプロジェクトにて、システム開発経験を蓄積し、プロジェクトマネジャーとして金融サービスのシステム開発・システム企画を担当。そして現在は、開発系部門の人事担当マネジャーとして、人事、育成、総務、労務を担当し、組織活性・エンゲージメント向上に従事する。



多摩大学大学院では「知の再武装」を標榜していますが、学びの重要性については個々の資質や状況によっても多寡があると思います。ただ、私の場合は絶対に必要であったと、大学院を修了した今、強く感じています。講義を基盤とする学びは、知識・見識・視座の獲得のみならず、多様なバックグラウンドを持つ他者との交流があります。そこでの意見交換を通して視野が広がり、相互主観

的にもものごとを考察する力も向上したと感じています。講義を通して自然と行われたこうしたトレーニングは、書籍を読んだりネットを検索したりするだけでは決して味わえない経験であり、私にとつて何物にも代えがたい財産です。実際、大学院修了後も院生時代に培ったコミュニティは役立っており、キャリアを形成していくための大きな幹を作ることでできたと考えています。

### 原田さんへ、教員からのメッセージ

熱い思いを持って同期のリーダー格の一人として2年間を駆け抜けた男。原田さんは大手IT企業のミドルとして、多くのエンジニアたちとともに多忙で充実した毎日を送っていたが、知識創造に関する一冊の本との出会いを通じて、「このままの自分ではいいのだろうか...」という疑問を持った。業務上の成果やスキルアップ以上に、社会課題の視点から本質的なことに取り組む大人の責任を感じたのだ。現状に埋没する道を避けるため大学院を目指した原田さんは、ITエンジニアたちを活性化させる新たなマネジメントの手法を修士論文で書き上げた。卒業後はその実践に邁進しているという。頼もしいミドルがまた一人旅立ってくれた。



### 徳岡 晃一郎

多摩大学大学院 名誉 / 特任教授

### 矢山さんへ、教員からのメッセージ

矢山さんは、私の教える①ヒューマンリソース概論②日本の製薬企業の未来③論文演習の授業を受講いただきました。中でも論文演習の取り組み姿勢には、感銘を受けました。多摩大学大学院は、卒業時に学びの集大成として論文作成があります。自社の課題を持ち込み、どう解決するかの正に実践知論文になります。問題解決の仮説や先行研究からリサーチクエッションを特定し、インタビュー調査やアンケート調査を実施し、データドリブンでの提言を纏めるというものです。就活と同じで、この論文作成の時期だからこそ異業種や競合他社にも面談できると、精神的に取り組む姿の印象が残っています。結果として、最優秀論文賞を受賞しました。入学時の女性初の営業所長から、さらに社内外で活躍するリーダーとなってくださることを期待しています。



### 佐々木弘明

多摩大学大学院 特任教授

# 学び直して感じる、激動の時代を生き抜くために 不可欠な、知の再武装

変化しなければ  
生き残れない  
それは会社も人も同じ

私が(株)学習研究社(現:学研ホールディングス)に入社した当時、出版業界は縮小傾向にあり、弊社も例外ではありませんでした。私自身はマスコミの一端を担うことへの希望にあふれていましたが、中には「このままでは、この会社は危ないのではないか」と将来を悲観する社員

もおり、私も一抹の不安を抱えての社会人生活スタートとなったのです。

それから約20年、弊社は中核事業を教育と医療福祉の2領域へと大きくシフトし、好調な業績を残しています。私から学んだのは、「企業は変化し続けなければ生き残れない」という、至極シンプルなこと。そしてそれは企業のみならず、人についても当てはまります。次世代のビジネス基軸を構築するため、中心的役割を担うのは私たち40代

の社員です。けれども手持ちの知識や経験だけでは、新たなブレイクスルーを生み出すことは難しい。焦燥感を抱えつつ、今後の社業の変化にも貢献できる人材となるべく私が選んだのは、知の再武装でした。多摩大学大学院は講師陣が幅広く、ルール形成やサステナビリティといった注目の領域についても深く学べると思い、門を叩いたのです。

多様な背景の学生が  
認め合い  
意見を交わす環境

実際に学び始めてみると、想像していた以上に実践的な内容の授業が多いことに驚いています。水木さとみ教授の「ストレスマネジメント」では、対人関係やマネジメントにおいて活用できるフレームワークやコミュニケーション方法を教えていただき、普段のビジネスにおいても大いに役立ちました。また医療福祉は弊社の中核事業の一つでありながら自分事として捉え切れていなかった私にとって、理解を深めるきっかけとなったのが真野俊樹特任教授の「医療・介護経営」です。医療介護領域における「課題の捉え方」や「視点の置き方」などを身につけることができ、自社事業に対する理解度がより深まったと感じています。

講義自体も土日に数多く開講されており、平日に無理に時間を捻出する必要もなく、じっくりと課題に取り組むことができます。そして「書物を読むだけの知識習得では得られない、人との出逢い」がここにはあります。経験豊かな講師陣はもちろん、多様なバックグラウンドを持つ学生が集い、意見を交わす。皆が背伸びをすることなく、分らないことは「分からない」と言いやすい環境なので、

互いに切磋琢磨し、学びを深めることができます。

後輩社員に、自信を持って  
バトンを渡したい

入学して半年が経ちましたが、知識の習得以外にも、自分の中のさまざまな変化を感じています。その一つが、対人コミュニケーションにおける相手の捉え方です。以前は「何故この人はこんなことを言うのだろうか？」と同僚の言動が腑に落ちないことも多かったのですが、相手を俯瞰的に捉えるスキルが向上したと感じます。これも、ストレスマネジメントやインナーコミュニケーションの講義で学んだことが活かされているからだと思っています。

自分が経験してきた体験だけで、現代のような激動の時代を生き抜くことは到底できません。他者との協働から今までにない価値を創出することが不可欠で、そのためには改めて学びに取り組む必要があります。それが「知の再武装」であり、これからのビジネスパーソンに求められるものだと思います。

2021年、弊社グループは創業77年目を迎えました。不安を感じながら始まった私のキャリアは、会社の成長に歩を合わせて豊かなものとなり、知の再武装によってより高いレベルをめざせるようにもなりました。いつまで働くことになるのか、現状では分かりません。けれどもいつか退職する日には、「この会社は100周年まで安泰だよ」と、自信をもって後輩たちにバトンを渡したい。そのためにより研鑽を重ね、一層社業に貢献できる人材へ成長していきたいと思っています。

佐藤さんへ、教員からのメッセージ

人生100年の計画にしたがい、ビジネスパーソンは皆、御社名のとおり生涯「学習」と「研究」を継続し、知の再武装を続けたいと生き延びるのがむずかしい時代に生きています。佐藤さんにおかれては、本学の提供するさまざまな分野の科目に挑戦し、在学中も卒業後の同窓会活動を通じて、知的好奇心を一杯一杯にして、ますます広い視野から新しい時代にビジネスを展開できるようになることを祈っています。



宇佐美 洋  
多摩大学大学院  
名誉/特任教授

# 現場だけでは学べない 実践知を身につけることで 広がるセカンドキャリア

人生100年の時代  
今こそ学び直す時

多摩大学大学院入学のきっかけは、ライフシフト大学に通ったことです。人生100年時代、仕事人生80年時代を豊かに生きるための学びの場で多様なメンバーと学ぶ中、自分に不足している部分や弱い部分が浮き彫りになりました。社内においてさまざまな部署を経験し、その都度新たな知識や経験を身につけてき

ましたが、これからの人生を考えた際、「今こそ、本腰を入れて学び直す時」と強く考えさせられたのです。多摩大学大学院は実務家の講師陣が多い超実学志向の大学院であり、少人数クラスで学べる点が魅力的に映り、入学を決めました。これまで蓄積してきた知識や経験を総動員しながら、日々変化を続けるビジネスをキャッチアップし、その本質を学んでいく。それによって点と点がつながり、ものごとの捉え方そのものが大きく

変化するのではないか。そして教室での学びを現場に持ち帰り、日々の業務にダイレクトに反映させたいと思ったのです。

机上の理論で終わらない  
血の通ったビジネス実践知

入学した当初の春学期には、9科目を履修しました。どの講義も興味深いものでしたが、特に3つの科目が私の考え方、ものの見方に大きな変化を与えてくれたと思っています。

佐藤勝彦特任教授の「ビジネス実践知探求」で学んだ編集工学を通して自分の思考の「癖」に気づくことができ、整理して伝えることが速くなりました。また田坂広志名誉教授の「スパージェネラリスト」では、徹底的に自己と向き合う中で内省が進んだと思います。そして國分俊史教授の「社会課題起点のルール形成戦略」では世界の裏側を見ることができ、受け身ではなく仕掛ける大切さと難しさを学ぶことができました。

これらに限らず、どの講義も机上の理論で終わらない血の通った最新のビジネス実践知を学ぶことができ、実社会ですぐに活かせる点が魅力です。それが可能になるのも、指導を担当する講師陣が実務経験の豊かな、第一線で活躍されている方が中心となっているから。また、共に学ぶ仲間も年齢や国籍、バックグラウンドが異なる学生ばかりです。どの講義も少人数クラスで行われるので、彼らと意見を交わすことで自分にはなかった視座を得たり、意図をきちんと伝える発信力などを学ぶことができました。

学び直すことで  
アウトプットの質も向上

社会人となって約30年。振り返ると私のインプットは社業におけるOJTが中心だったと思います。そこからのアウトプットも可能ですが、より高い次元、従来とは異なる視座での物事の捉え方を修得するには、日々の業務だけでは容易ではありません。自分自身を高めるためには、専門性が高く幅広いビジネス実践知を学ぶことが重要だと、学び始めて実感しています。

そうした気づきだけでなく、自分の中でもいくつかの変化が生まれました。まず、業務の処理能力が向上したこと。それぞれの講義を履修するには予習が必要であり、またレポートの提出も課せられます。常に頭が回転していることで、見関係のないようなことが突然結びつき、本質的で素早い判断ができるようになったのかも知れません。また物事の見方が多面的になったり、その背景までを視野に入れられるように。幅広い知識が頭に入っていることによって、見える世界が変わった気がします。

数年前までは、セカンドキャリアは別の会社での人事総務やキャリアコンサルタントといった仕事を通して社会貢献したいと思っていました。けれども学び始めたことで、現在のキャリアパスの延長線上だけでなく、実力があれば大きな可能性に挑戦できるという考えに至ったのです。マネジメントは人やモノ、金、情報といったさまざまな要素によって構成されます。多様な院生と切磋琢磨しながら、その体験を身体に染み込ませるような学びをし、新たな実践知も身につけることで、まだ見ぬ世界に自ら切り拓いていきたいと考えています。

味の素エン지니어リング株式会社  
コーポレート本部人事部  
コーポレート本部副本部長兼執行役員人事部長

宮川 隆史さん (2023年3月修了)

Profile 1990年に味の素に入社し、営業、広報、人事、経企、海外、事業、SCMと、様々な部署でキャリアを重ねる。海外で人の力は無限であることに感動し、人事に手を挙げて教育・研修、採用、キャリア支援の責任者を歴任。2022年から関係会社で人事全般を担当し、「個人と会社の共成長」を目指して、人事諸制度の改定、福利厚生充実など、新しいテーマに挑戦する毎日を送っている。



MIYAGAWA Takashi

宮川さんへ、教員からのメッセージ

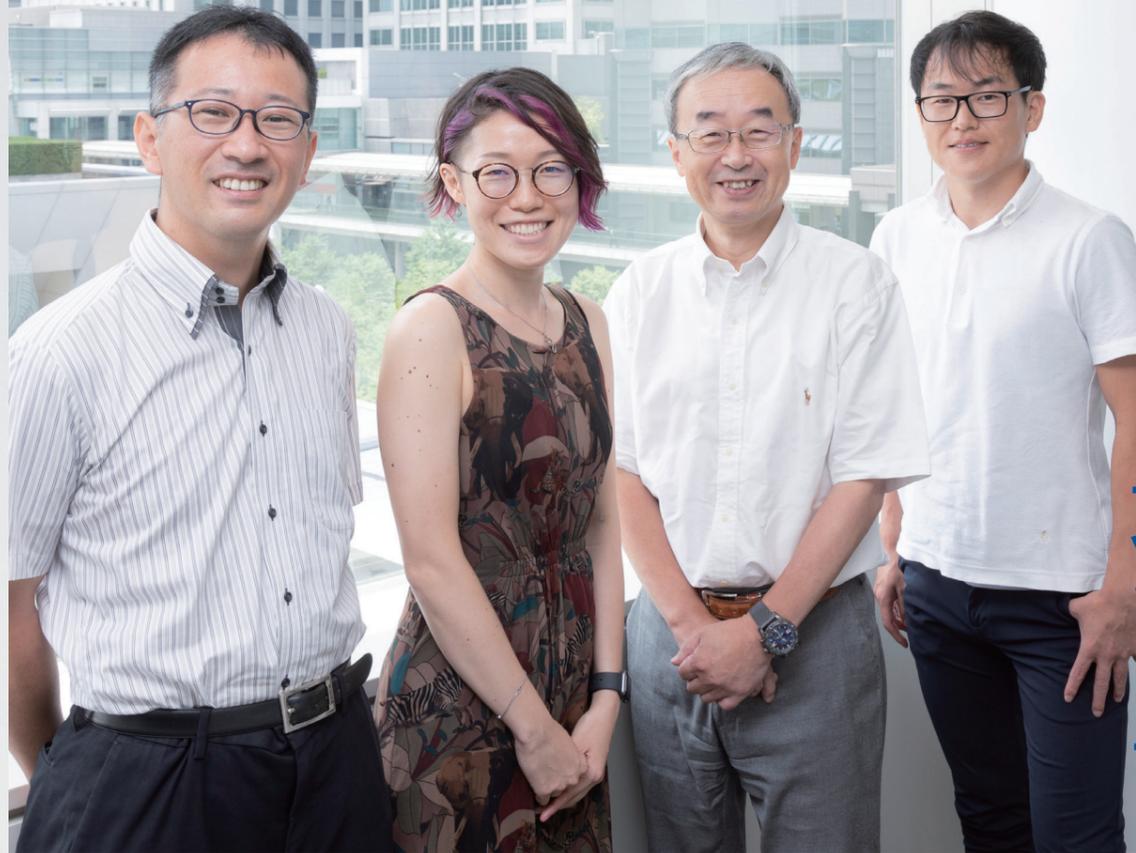
宮川さんは私の講義「マーケティングマネジメント概論」を受講してくれましたが、柔らかい人柄が印象的な方です。所属先の企業の海外子会社でグローバルマーケティングの実務に関わったご経験もありクラス・ディスカッションでも活発に発言しクラス全体の学びに貢献してくれました。人事、営業、広報、マーケティングと幅広いキャリアを経て培った企業経営に対する広い視野とスキル、バランス感覚を活かして、今後組織の枠を超えた活躍を期待しています。



河野 龍太  
多摩大学大学院  
教授

# 私たちの挑戦

## 実践志向の濃密な2年間がイノベーターシップと高い志を育む



### 修了生座談会

現実を変革する熱い志を抱き、現状に満足することなく、より高い目標を目指し、2年間にわたる「知の再武装」を自らに課した修了生たち。多摩大学大学院で学んだ知識、講師や院生との絆、そしてイノベーションを起こす「志」は、混迷を深める現代社会において重要な役割を担うはず。学んだ知識を社会で生かす3人の修了生に語っていただきました。

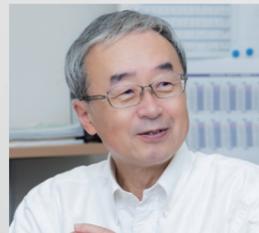
#### 修了生3人が語る、「知の再武装」の重要性と入学の決意

**徳岡** 今日は3名の修了生の皆さんに集まっていたきました。異なる分野で働いておられて、ただ共通しているのは「何らかの思い」をもって多摩大学大学院の門を叩いたということ。そんな皆さんの入学の経緯、学び直しのきっかけについて聞かせてください。

**西條** 当社は防災関連のコンサルティングなどを行っています。そこで私はエンジニアとしてキャリアを積んでいました。そして入社9年目に経営企画室に異動となったのですが、まったく分野が違い、飛び交う言葉も分からない状態で非常に苦労しました。そんな時、上司から紹介されたのが多摩大学大学院でした。

**徳岡** 慣れない仕事と学業の両立は大変だったのでは？

**西條** 大変でしたが、こちらで学んでいた時期に人事部門へ異動したこともあり、徳岡教授の人事の講義も履修させていただきました。ちょうど社内ですべての業務がリアルタイムに連動して、非常に役立ちました。徳岡教授にもいろいろアドバイスをいただいたのでは？



**TOKUOKA Koichiro**

徳岡 晃一郎 名誉/特任教授  
担当科目: 「イノベーターシップ」の実践、MBB・思いのマネジメント実践、論文演習 他

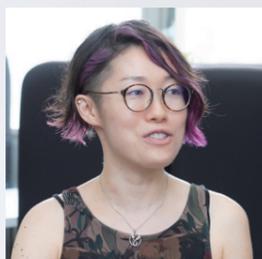
転職時期が在学中ということもあり大変でしたが、いつかはインハウスのマーケットになりたいと思っていたので、「大決心で転職した次第です」。

**大谷部** 私はそんなマレーさんと同期生でした。(株)オリエンタルランドに勤めていて、自社のテーマパークを軸にした旅行商品の企画などを担当しています。28歳で入学したのですが、それは「30歳になつたら会社から求められる役割や、自分が発信する提供価値も大きく変わるだろう」と感じたからです。そこで、格好良く言う「今までは違うエンジンを積みたい」と思い、入学を決意しました。

#### 修士論文に取り組んだことで各自の中に生まれた変化

**徳岡** 皆さんいろいろな思いを持って入学されたわけですね。2年間の学びの集大成といえるのが修士論文だと思うのですが、それぞれどのようなことをテーマに取り組みましたか？

**大谷部** 私の場合、多摩大学大学院で学んだ2年間で新型コロナウイルスの時期と重なっていて、業務の方でも大きな影響を受けました。そうした中で個人の立場として、「両利きの経営」を実現させるための組織マネジメントの考察を修士論文のテーマとしたのです。私たちのビジネスは各部署の調和によって成り立つわけですが、新たなものを生み出す際にはその調和が弱みになるのではないかと常々考えていました。



**MURRAY Ayumi**

マレー 亜有美さん  
2020年4月入学 / 2022年3月修了  
株式会社Paidy



**OYABE Hiromu**

大谷部 寛武さん  
2020年4月入学 / 2022年3月修了  
株式会社オリエンタルランド

**徳岡** 具体的にはどのようなに進めましたか？

**大谷部** 過去の成功体験を積み上げてきた大企業で新しいものを生み出す。そのためヒントのようなものを知りたいと思い、大手企業の方々にインタビューをさせていただきました。そこで得た知見を論文をまとめました。

**西條** 私は自社でも手掛ける「防災ビジネス」が活性化する方策について、論文にまとめました。環境や健康については国も注力しており、それに伴うビジネスも活発に行われているのですが、防災に関してはそこまで上手く機能していないと感じていました。ビジネスとして確立すれば新たなプレーヤーも参入してくるはず。どうすれば新技術や、それが実装されるような「いい循環」が生まれるだろうかという問題意識がベースになっています。

**マレー** お二人はお仕事で感じた課題を論文のテーマにしたんですね。私の場合は少し方向が違って、以前から関心のあった知的障がい者の雇用をテーマに書きました。子供の頃から意思疎通が上手にできない方と関わる機会が多く、障がいも一つの個性と考えるような社会になればいい、もっとインクルーシブな世の中になればいいと以前から考えていました。こういうテーマはなかなか選ばれないだろうと思いつながら、だからこそ私が形にしなければいけないとも思いました。

**徳岡** なるほど、マレーさんは普段の業務とは関係のない分野をテーマにしたということですが、それでも

仕事に役立つ部分があるのではないですか？

**マレー** 急に障がい者雇用促進委員会を社内です立ち上げるとか、そういうことはないので、障がいの有無にかかわらず誰にでも得手不得手があり、だからいろいろな人が集まる必要があるのだと理解できるようになったのは、自分でも成長できた点なのかなと感じています。

**徳岡** 大谷部さんも西條さんも、修士論文をまとめたことで自身の中に変化はありましたか？

**大谷部** たとえば部署内のメンバーから相談を受けた際も、どのように助言をすれば新たなものが生まれるだろうかとか、他部署に対して自分がどのようにサポートできるかという部分の意識は非常に強くなったと思います。こうした意識が周囲にも伝播していくことで、新しい夢や喜びを生み出していけるようになればいいと思います。

**西條** 私が修士論文を仕上げたのは約4年前なのですが、当時よりは防災がビジネスとして見られていると感じています。そこには気候変動が激しくなったという要因もありますが、それに対する対策をきちんと行うことが企業価値につながっているという実感があります。そういう意味では、論文にまとめたことが形になってきていると感じています。

#### イノベーターシップこそ現代社会に必要なもの

**徳岡** 修士論文に限らず、多摩大学大学院で学んだことが現在の業務に与えた変化などはありますか？

**マレー** 「この授業のこの部分が役立っています」ということはすぐに思いつかないのですが、業務を進める中で、先生方から聞いたさまざまな言葉や思い出すことは多いです。「あ、先生の言っていたことはこういうことだったのか!」というような気付きは、日々感じています。また、「クリティカルシンキング」で学んだことは大きいなと思っています。社内にはあふれるほどのデータがあるのですが、データ分

析をするにしても、データを掘ること自体が目的になっていたのです。問題は何か、誰が困っているのかといったことをきちんと組み立てて考えていくということは、とても役に立っています。

**大谷部** 私の場合、新型コロナウイルスをきっかけに、自社のテーマパークビジネスの置かれている環境が気になりました。

**マレー** そうですね。その際に、大谷部さん個人としてどのように感じていたのが気になります。

**大谷部** 今までの延長線上ではない、時代の変化に対応したビジネスのあり方を模索すべきだと考えていました。そうした状況下でしたので、自然と構想力のようなものが身に付いたのかなと思います。

**西條** 私の場合、キャリアに対する考え方が変わったと思います。以前は、最終的にはエンジニアに戻り、社会と当社の接点を作るところに携わりたいと考えていました。多摩大学大学院では多くの理論などを学びましたが、最も身に付いたのは「志の部分だ」と思います。

**徳岡** 自社の技術を社会に伝えていく、そんな自分自身の志を見つけたということですね。日本経済は多くの課題を抱えています。今こそイノベーターシップが求められています。皆さんもイノベーターのさまざまな分野で影響力を発揮してほしいと思います。



**SAIJO Yusuke**

西條 裕介さん  
2016年4月入学 / 2018年3月修了  
株式会社構造計画研究所